



平成31年3月
国土交通省
全国「道の駅」連絡会



平成30年度

「道の駅」と大学の連携・交流に関する 取り組みのご紹介

— 目 次 —

はじめに

1. 「就労体験型実習（インターンシップ）」に関する取り組みについて	1
2. 平成30年度就労体験型実習実施状況（マッチング結果）	2
(1) 就労体験型 基本協定締結大学	2
(2) 就労体験型 受入「道の駅」	3
(3) マッチング結果	4
(4) 平成30年度就労体験型実習結果	6
① 実習結果概要一覧	6
② 「道の駅」別実習結果概要	9
(5) 基本協定（ひな形）、各様式等	29
3. 平成30年度 連携企画型実習結果	36
(1) 連携企画型実習状況	36
(2) 平成30年度 連携企画型実習結果概要	37

【はじめに】

「道の駅」には地域の観光資源や魅力を語る人材が集まっており、地域の課題を解決する拠点となっています。また、将来の地域活性化の担い手となる人材を育成・確保するためには、現場での就労体験を通して、実地的な知識や技術を学ぶことが重要です。

このため、国土交通省では「道の駅」を、観光振興や地域振興を学ぶ学生の課外活動やインターンシップの場として本格活用することとしました。

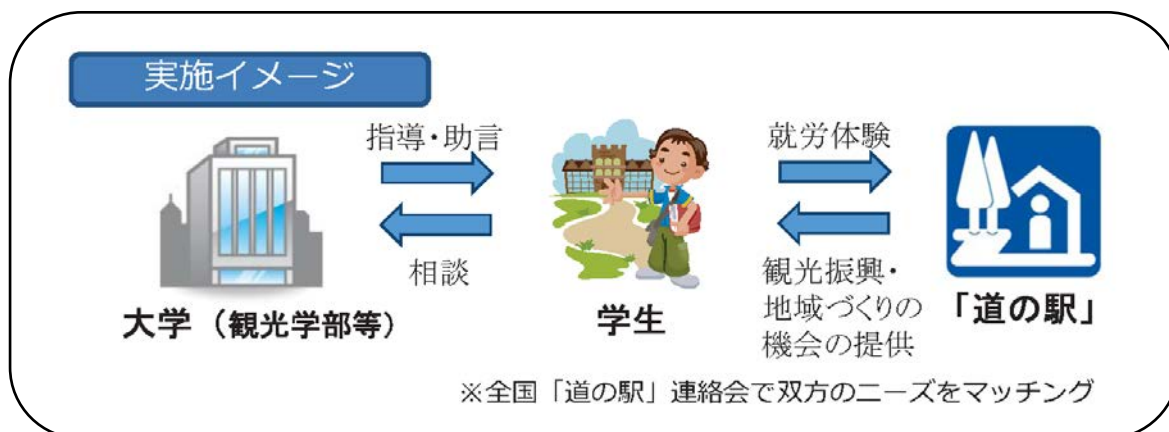
これまで、「道の駅」において、地元大学等と個別に連携を行う事例はありましたが、全国の「道の駅」を対象に実施することにより、都市部の学生が地方部の「道の駅」で交流するなど、新たな価値の創造が期待されます。

本書は、この「道の駅」と大学の連携・交流に関する取り組みに関して、今夏に実施された「就労体験型実習（インターンシップ）」の実績を紹介するものです。

1. 「就労体験型実習（インターンシップ）」に関する取り組みについて

「道の駅」と大学の連携・交流に関する一環として、平成27年度より、観光や地域づくりを学ぶ学生が、夏期休暇等を利用し、「道の駅」で就労体験型実習（インターンシップ）を実施する取り組みが始まっています。

本取り組みは、地域の魅力の集まる「道の駅」と、観光学等を学ぶ地域外の若者が交流することで、新たな価値の創造を図ります。



具体的な取り組みとしては、「就労体験型」と「連携企画型」の2種類があります。過去の実施例としては、以下のとおりです。

<就労体験型>	<連携企画型>
<p>「霧の森」(愛媛県四国中央市)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元イベントの企画立案、実施補助のほか、道の駅内で製造されている地元名産品の製造・販売の補助を実施。 ・H25年度は10名受け入れ、うち7名は関西圏の大学から参加 <p>・H15からこれまで約110名が実施 ・そのうち2名が「道の駅」へ就職</p> <p>大学生が企画したイベント 地元名産品「霧の森大福」</p>	<p>京都府亀岡市、南丹市、京丹波町の道の駅</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都精華大学の大学生が、道の駅で販売するスイーツパッケージをデザイン <p>「かなん」(大阪府河南町)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅と大阪府立大学の大学生のコラボによりオリジナル弁当を開発 <p>包装デザイン打合せ 道の駅弁当「かなん冬の恵み」</p>

本取り組みによって期待される効果としては、次のようなものがあります。

〈大学のメリット〉

- 地域の資源が集中し、地方が直面する課題が明確である「道の駅」をフィールドとして、机上では得ることが難しい学習が可能
- 地域の活性化の現場における将来の人材育成

〈「道の駅」のメリット〉

- 若者の視点を活かした地域づくり、若者の元気による実行力のある企画の実施
- HP 作成や SNS 等の若者の IT スキル、情報ネットワークを活用した情報発信

2. 平成30年度就労体験型実習実施状況（マッチング結果）

（1）就労体験型 基本協定締結大学

就労体験型実習に関して、全国道の駅連絡会と基本協定を締結している大学は、平成30年12月現在、一つのコンソーシアムを含む67大学（大学数としては71大学）となっています。

表-1 就労体験型 基本協定締結大学 一覧

平成30年12月時点

No.	都道府県	大学名	No.	都道府県	大学名
1	北海道	北海道大学	35	長野県	長野大学
2		稚内北星学園大学	36		松本大学
3		北星学園大学	37	岐阜県	中部学院大学
4		旭川大学	38		中部学院大学短期大学部
5		北海商科大学	39	静岡県	常葉大学
6		釧路公立大学	40	愛知県	名古屋外国語大学
7		釧路短期大学	41		名城大学
8		北見工業大学	42	三重県	鈴鹿大学
9	青森県	青森大学	43	京都府	福知山公立大学
10		青森中央学院大学	44		平安女学院大学
11	岩手県	岩手県立大学	45		立命館大学
12		岩手大学	46	大阪府	大阪観光大学
13	山形県	東北芸術工科大学	47		近畿大学
14		東北公益文科大学	48		阪南大学
15		山形大学	49		桃山学院大学
16	福島県	福島大学	50	兵庫県	神戸海星女子学院大学
17	茨城県	茨城キリスト教大学	51		神戸芸術工科大学
18		茨城県立農業大学校	52		流通科学大学
19		筑波大学	53		神戸学院大学
20	栃木県	宇都宮大学	54	奈良県	帝塚山大学
21		佐野短期大学	55	和歌山県	和歌山大学
22		文星芸術大学	56	鳥取県	鳥取大学
23	埼玉県	淑徳大学	57	岡山県	倉敷芸術科学大学
24		立教大学	58		岡山理科大学
25		城西大学	59	徳島県	徳島大学
26		平成国際大学	60	香川県	香川大学
27	千葉県	江戸川大学	61	愛媛県	大学コンソーシアムえひめ インターンシップ部会(5大学)※
28		城西国際大学			
29	東京都	跡見学園女子大学	62	福岡県	九州産業大学
30		帝京大学	63	長崎県	長崎県立大学
31		法政大学	64		長崎国際大学
32		専修大学	65		長崎総合科学大学
33	神奈川県	文教大学	66	大分県	日本文理大学
34	山梨県	山梨学院大学	67	宮崎県	宮崎大学

※「大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会」は、愛媛大学、松山大学、松山東雲女子大学、松山東雲短期大学、聖カタリナ大学より構成されており、大学数としては71大学となる。

※都道府県は、協定締結先（学長・学部長等）により整理している。

(2) 就労体験型 受入「道の駅」

就労体験型実習に対して受入を表明している「道の駅」は、平成30年12月現在、50駅となっています。

表-2 就労体験型受入「道の駅」一覧

No.	都道府県	市町村	道の駅名	備考
1	北海道	厚岸町	厚岸グルメパーク	
2		小清水町	はなやか小清水	
3		剣淵町	絵本の里 けんぶち	
4		名寄市	もち米の里☆なよろ	
5	青森県	七戸町	しちのへ	H30重点
6		十和田市	奥入瀬	
7		青森市	なみおか	
8		八戸市	なんごう	
9		十和田市	とわだ	
10	岩手県	雫石町	雫石あねっこ	
11	宮城県	大崎市	あ・ら・伊達な道の駅	H26重点
12		村田町	村田	
13	秋田県	湯沢市	おがち	
14		由利本荘市	岩城	
15	山形県	飯豊町	いいで	
16		米沢市	田沢	
17	茨城県	五霞町	ごか	
18		常陸太田市	ひたちおおた	H26重点
19	栃木県	栃木市	みかも	
20	群馬県	甘楽町	甘楽	
21		長野原町	ハッ場ふるさと館	
22	埼玉県	吉見町	いちごの里よしみ	
23	千葉県	南房総市	とみうら	全国モデル
24		鴨川市	鴨川オーシャンパーク	
25		旭市	季楽里あさひ	H27重点
26	長野県	立科町	女神の里たてしな	
27		大桑村	大桑	
28	岐阜県	関市	むげ川	
29		美濃市	美濃にわか茶屋	
30		池田町	池田温泉	
31	静岡県	伊豆の国市	伊豆のへそ	H26重点
32	三重県	多気郡大台町	奥伊勢おおだい	H27重点
33	兵庫県	養父市	但馬楽座	
34		西脇市	北はりまエコミュージアム	
35		神河町	銀の馬車道 神河	
36	新潟県	十日町市	瀬替えの郷せんだ	H26重点
37	福井県	小浜市	若狭おばま	H27重点
38	奈良県	葛城市	ふたかみパーク當麻	
39	和歌山県	紀の川市	青洲の里	
40	香川県	小豆島町	小豆島ふるさと村	
41		三豊市	たからだの里さいた	
42	愛媛県	松野町	虹の森公園まつの	H29地域交通拠点部門モデル
43		今治市	しまなみの駅御島	H26重点
44	福岡県	上毛町	しんよしみ	
45	佐賀県	鹿島市	鹿島	H26重点
46		唐津市	桃山天下市	
47	長崎県	西海市	さいかい	
48	熊本県	阿蘇市	阿蘇	H27重点
49		熊本市	すいかの里植木	
50	鹿児島県	薩摩川内市	樋脇	

(3) マッチング結果

平成30年度に実施された就労体験型実習において、大学(学生)の希望する「道の駅」とマッチングを行った結果、協定を締結している11大学のべ23名が全国の15箇所の「道の駅」で実習を行うこととなりました。

表-3 平成30年度就労体験型実習 参加大学一覧

No.	都道府県名	大学名
1	山形県	山形大学
2	茨城県	茨城県立農業大学校
3	埼玉県	立教大学
4	千葉県	江戸川大学
5	東京都	帝京大学
6	神奈川県	専修大学
7	大阪府	大阪観光大学
8	兵庫県	神戸学院大学
9	岡山県	岡山理科大学
10	愛媛県	松山大学
11	長崎県	長崎県立大学

表-4 平成30年度就労体験型実習受入「道の駅」と実習者数一覧

都道府県	市町村名	道の駅名	大学名	人数
宮城県	大崎市	あ・ら・伊達な道の駅	山形大学	1
茨城県	五霞町	ごか	茨城県立農業大学校	1
			江戸川大学	2
	常陸太田市	ひたちおおた	茨城県立農業大学校	4
埼玉県	吉見町	いちごの里よしみ	松山大学	1
千葉県	旭市	季楽里あさひ	江戸川大学	1
			帝京大学	1
	鴨川市	鴨川オーシャンパーク	専修大学	1
岐阜県	池田町	池田温泉	大阪観光大学	1
静岡県	伊豆の国市	伊豆のへそ	大阪観光大学	1
三重県	大台町	奥伊勢おおだい	帝京大学	1
兵庫県	西脇市	北はりまエコミュージアム	神戸学院大学	1
奈良県	葛城市	ふたかみパーク當麻	大阪観光大学	2
和歌山県	紀の川市	青洲の里	大阪観光大学	1
香川県	小豆島町	小豆島ふるさと村	岡山理科大学	1
愛媛県	今治市	しまなみの駅御島	立教大学	1
熊本県	阿蘇市	阿蘇	大阪観光大学	1
			長崎県立大学	1

13府県

15駅

11大学 23名

(4) 平成30年度就労体験型実習結果

平成30年度における就労体験型実習結果について、①に実習結果概要一覧、②に「道の駅」別の実習結果概要を示します。

① 実習結果概要一覧

都道府県	市町村	道の駅名	大学名	実習概要
宮城県	大崎市	あ・ら・伊達な道の駅	山形大学	○実習期間：平成30年9月6日(木)～9月19日(水)【10日間】 ○実習生：山形大学 学生1名 ○実習内容：①道の駅周辺地域の視察 ②週末イベントの業務補助 ③アンケート調査の実施 ④道の駅の課題解決に向けた企画や運営方法の提案
茨城県	五霞町	ごか	茨城県立農業大学校	○実習期間：平成30年8月25日(土)～12月1日(土)【6日間】 ○実習生：茨城県立農業大学校 学生1名 ○実習内容：①野菜等の陳列、補充 ②商品のシール張り ③陳列棚の商品の入れかえ ④イベント「新米祭り」、「活性化サロン」
			江戸川大学	○実習期間：平成30年9月15日(土)【1日間】 ○実習生：江戸川大学 学生2名 ○実習内容：①おにぎり作成の補助・配布2回 ②おみやげ品の陳列、販売
	常陸太田市	ひたちおおた	茨城県立農業大学校	○実習期間：平成30年8月6日(月)～8月10日(金)【5日間】 平成30年8月20日(月)～8月24日(金)【5日間】 ○実習生：茨城県立農業大学校 学生4名 ○実習内容：①直売所での農産物商品出し補助、レジ係 ②ハウスでのトマト栽培管理 ③トマト摘み取り体験補助
埼玉県	吉見町	いちごの里よしみ	松山大学	○実習期間：平成30年8月27日(月)～9月5日(水)【8日間】 ○実習生：松山大学 学生1名 ○実習内容：①吉見町の観光 ②売店での販売 ③簡易店舗での販売 ④食堂での調理や販売
千葉県	旭市	季楽里あさひ	江戸川大学	○実習期間：平成30年8月13日(月)～8月17日(金)【5日間】 ○実習生：江戸川大学 学生1名 ○実習内容：①旬のとれたて市場での品出しやレジ打ち ②加工室での調理補助 ③レストラン四季食彩館での接客や食材の下ごしらえ、洗い物 ④店頭並べる野菜の袋詰め
			帝京大学	○実習期間：平成30年8月10日(金)～8月19日(日)【8日間】 ○実習生：帝京大学 学生1名 ○実習内容：①レストランや花売り場でのお手伝い ②加工室での調理補助 ③レジ体験、野菜のパック詰め等 ④イベントでの金魚すくい店番
	鴨川市	鴨川 オーシャンパーク	専修大学	○実習期間：平成30年8月8日(水)～8月28日(火)【20日間】 ○実習生：専修大学 学生1名 ○実習内容：①イベントでの販売補助 ②近隣の道の駅の視察 ③夏みかんシロップ作り ④近隣へパンフレット配り、清掃(店内、駐車場、海岸)、レジ打ち

都道府県	市町村	道の駅名	大学名	実習概要
岐阜県	池田町	池田温泉	大阪観光大学	○実習期間：平成31年2月6日（水）～2月10日（日）【5日間】 ○実習生：大阪観光大学 学生1名 ○実習内容：①道の駅の概要 ②業務研修 ③イベント準備 ④イベント
静岡県	伊豆の国市	伊豆のへそ	大阪観光大学	○実習期間：平成31年2月6日（水）～2月10日（日）【5日間】 ○実習生：大阪観光大学 学生1名 ○実習内容：①品出し ②きのこ汁の販売 ③レジ
三重県	大台町	奥伊勢おおだい	帝京大学	○実習期間：平成30年8月27日（月）～8月31日（金）【5日間】 ○実習生：帝京大学 学生1名 ○実習内容：①来場者対象のアンケート調査 ②アンケートデータ整理 ③集荷の手伝い・商品の陳列 ④部署リーダーとのディスカッション
兵庫県	西脇市	北はりま エコミュージアム	神戸学院大学	○実習期間：平成30年8月20日（月）～8月26日（日）【5日間】 ○実習生：神戸学院大学 学生1名 ○実習内容：①店内での全般的な仕事（レジ補助、品出し、接客など） ②お客様にアンケート調査とその結果のまとめ ③POP作成、SNS投稿 ④バスツアーの参加
奈良県	葛城市	ふたかみパーク当麻	大阪観光大学	○実習期間：平成30年8月21日（火）～8月23日（木）【3日間】 ○実習生：大阪観光大学 学生1名 ○実習内容：①味噌作り
			大阪観光大学	○実習期間：平成30年8月21日（火）～8月23日（木）【3日間】 ○実習生：大阪観光大学 学生1名 ○実習内容：①水切り、米蒸、発酵 ②切り返し、豆洗い ③豆を煮る、麹菌との混ぜ合わせ
和歌山県	紀の川市	青洲の里	大阪観光大学	○実習期間：平成30年8月9日（木）～8月13日（月）【5日間】 ○実習生：大阪観光大学 学生1名 ○実習内容：①レストランの受付表記入 ②商品棚の整理 ③商品のラッピング ④展示室の清掃 など
香川県	小豆島町	小豆島ふるさと村	岡山理科大学	○実習期間：平成30年8月19日（日）～9月6日（木）【19日間】 ○実習生：岡山理科大学 学生1名 ○実習内容：①キャンプ場にてチェックアウト受付、ゴミの分別作業 ②スノードーム、フォトフレーム、ハーバリウムの制作手伝い ③喫茶コーナーで接客業務 ④カヤック体験
愛媛県	今治市	しまなみの駅御島	立教大学	○実習期間：平成30年8月2日（木）～8月15日（水）【12日間】 ○実習生：立教大学 学生1名 ○実習内容：①農業収穫体験・漁業栽培視察 ②島の魅力発見・松山市の観光政策についての視察 ③手作り加工品体験・今治市の方との意見交換会

都道府県	市町村	道の駅名	大学名	実習概要
熊本県	阿蘇市	阿蘇	大阪観光大学	<ul style="list-style-type: none"> ○実習期間：平成31年2月28日（水）～3月4日（月）【5日間】 ○実習生：大阪観光大学 学生1名 ○実習内容：①町古閑牧野で草原トレイルウォーク体験の取材 ②熊本テレビの取材 ③草千里で野焼きの取材 ④阿蘇神社での取材 ⑤大観峰、阿蘇ジオパークガイド、火口、南阿蘇での取材
			長崎県立大学	<ul style="list-style-type: none"> ○実習期間：平成30年9月3日（月）～9月14日（金）【11日間】 ○実習生：長崎県立大学 学生1名 ○実習内容：①展示販売業務（レジ等） ②総合案内業務 ③サテライト視察 ④店内清掃

② 「道の駅」別実習結果概要

道の駅「あ・ら・伊達な道の駅」インターンシップ結果概要①



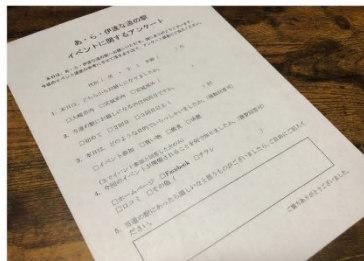
実習概要

- 実習期間：平成30年9月6日（木）～9月19日（水）【10日間】
- 実習生：山形大学 学生1名
- 実習内容：①道の駅周辺地域の視察
②週末イベントの業務補助
③アンケート調査の実施
④道の駅の課題解決に向けた企画や運営方法の提案

取組状況



<週末イベントの実施状況>



<作成したアンケート>



<最終報告の実施状況>

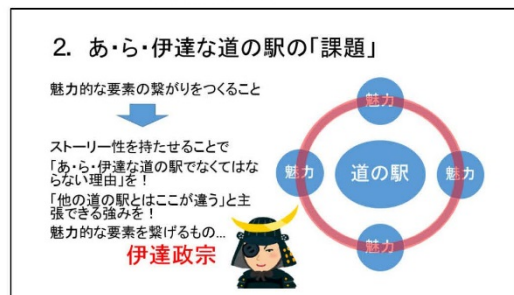
道の駅「あ・ら・伊達な道の駅」インターンシップ結果概要②



実習成果

- 道の駅の課題分析
 - ・道の駅利用者や地域の人を対象にした聞き取り調査
 - ・イベント参加者を対象にしたアンケート調査
- 課題解決に向けた企画や運営方法の提案
 - ・調査結果を元に道の駅の課題を提示
 - ・課題に対する提案として「つながり」をコンセプトにした報告を行った。

<最終報告のスライド>



実習を終えて

- ・道の駅は、従来の休憩機能だけでなく、観光施設や文化教養施設としての地域連携、さらには情報発信など、さまざまな機能を持ち合わせている施設で、地方創生のための地域ブランドの確立やブランドを売り出す役割として大きな可能性を感じた。
- ・提案を考えるうえで、運営側(道の駅で働く方々)の立場になり、実現することを仮定して企画を考えることの難しさを実感した。
- ・あ・ら・伊達な道の駅の点在した魅力をさらに向上させるために「つながり」をコンセプトとして提案を行った。この提案が、道の駅の新たな価値の創出に繋がればいいと思う。

道の駅「ごか」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：平成30年8月25日（土）～12月1日（土）【6日間】
- 実習生 茨城県立農業大学校 学生1名
- 実習内容：①野菜等の陳列、補充
②商品のシール張り
③陳列棚の商品の入れかえ
④イベント「新米祭り」、「活性化サロン」

取組状況



<仕入れ農産物の調整(キャベツ)>



<野菜の陳列、補充作業>



<商品の品出し>

実習の様子



9月16日 新米祭りおにぎり配布

時刻	作業内容
8:00	おにぎり製作開始
9:00	土産物コーナーレジ補助
10:30	おにぎりの無料配布
11:40	土産物コーナーレジ補助
13:40	メロンの箱詰め



実習成果

- ・道の駅「ごか」活性化サロンに参加し、道の駅の課題について自分の意見を発表した。
- ・道の駅「ごか」で9月16日に開催された「新米祭り」で、新米のおにぎりを600個握ったものを配布し、地域の新米を道の駅のお客様にPRできた。

・「活性化サロン」での発表



・新米祭りでおにぎり600個作成



実習を終えて

- ・学校では普段携わらない、トマトの袋詰めや白菜の外葉とり、商品陳列の作業などを行うことができ、自分のできる仕事が増えたと思います。
- ・実習を行うにつれ、農家さんと会話をする機会が増えていきました。大人と混ざって研修をすることで自ら仕事を探しに行くなど積極性が増し内面的にも成長できたと思います。
- ・実際に興味のある企業や事業所で短期間職場体験をすることで職場のことをより良く知る機会になりました。

道の駅「ごか」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：平成30年9月15日（土）【1日間】
- 実習生：江戸川大学 学生2名
- 実習内容：①おにぎり作成の補助・配布2回
②おみやげ品の陳列、販売

取組状況



<おにぎり制作の実施状況>



<おにぎり配布の実施状況>

道の駅「ごか」インターンシップ結果概要②



実習成果

- ・「道の駅」の運営、取り組みについて知ることができました。
- ・雨の中でしたが、多くの方におにぎりを配ることができました。五霞町は米の町ということをPRすることができました。



実習を終えて

- ・「道の駅」が地域を盛り上げるために、様々なイベントの開催や企画を考えていることがわかりました。
- ・利益や他県へのPRだけではなく、地元の人たちとの関わりを増やす場であることが道の駅の役割としてあるということを学びました。

道の駅「ひたちおおた」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：平成30年8月6日（月）～8月10日（金）【5日間】
平成30年8月20日（月）～8月24日（金）【5日間】
- 実習生：茨城県立農業大学校 学生4名
- 実習内容：①直売所での農産物商品出し補助，レジ係
②ハウスでのトマト栽培管理
③トマト摘み取り体験補助

取組状況



<商品出し補助の実施状況>



<トマト栽培管理の実施状況>



道の駅「ひたちおおた」インターンシップ結果概要②



実習成果

- ・実習を通して「まず目標を見つけ、それに取り組むことが大切」であることを学んだ。
- ・「観光客だけではなく、地元の方々が来やすい所、また来たい所にしたい」という言葉のとおり、道の駅で地産地消のサイクルができていることに感銘した。
- ・どのようにしたら野菜を手にとって貰えるかなど、お客様目線で一つ一つの作業を考える大切さを学んだ。
- ・トマト摘み取り体験でお客様の笑顔を見て、農業は人を笑顔にできる職業だと改めて農業の素晴らしさを学んだ。

【道の駅店内の状況】



実習を終えて

- ・「人間どれだけ年を取ろうと勉強は大事」の言葉を大切に、何事にも率先して学ぶ姿勢を忘れずに過ごしていきたい。
- ・道の駅で出会えたお客様や農業関係者との素晴らしい時間を胸に刻み、ここで学んだ体験を将来に役立てたい。
- ・安くて甘くて美味しいトマトを「道の駅」の目玉商品として全面に打ち出していけば魅力が大きくなると思った。

【従業員による農産物商品出し状況】



道の駅「いちごの里よしみ」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：平成30年8月27日（月）～9月5日（水）【8日間】
- 実習生：松山大学 学生1名
- 実習内容：①吉見町の観光
②売店での販売
③簡易店舗での販売
④食堂での調理や販売

取組状況



<吉見町観光の実施状況>



<食堂での販売の実施状況>



<簡易店舗での販売の実施状況>

道の駅「いちごの里よしみ」インターンシップ結果概要②



実習成果

食堂のものや売店、簡易店舗で販売している一部の商品が道の駅で作っているものでした。それを見て、お客様に対する熱意を感じました。それに受けこたえるかのようにお客様も私たちに「おいしかったよ。」などと言ってくださりとても嬉しく思いました。



実習を終えて

道の駅の方は皆さんとても優しくアットホームな環境でインターンシップをすることができました。また、接客業とはどのようなものかがよくわかりました。接客業で大事なのはお客様に対する思いやりの心や態度、話し方などということです。そこを心がけると、お客様にもそれが伝わりお互いが笑顔になるのだと思いました。

道の駅「季楽里あさひ」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：平成30年8月13日（月）～8月17日（金）【5日間】
- 実習生：江戸川大学 学生1名
- 実習内容：①旬のとれたて市場での品出しやレジ打ち
②加工室での調理補助
③レストラン四季食彩館での接客や食材の下ごしらえ、洗い物
④店頭で並べる野菜の袋詰め

取組状況



<加工室での調理補助の実施状況>



<梨の梱包の実施状況>



<野菜の袋詰めの実施状況>

道の駅「季楽里あさひ」インターンシップ結果概要②



実習成果

- ・道の駅季楽里あさひがどの様に完成したのか理解できた。
- ・野菜が店頭で並ぶまでには、時間と労力がかかることを体感した。



実習を終えて

- ・お盆という忙しい時期にも関わらず、多くの部署で就労体験をさせていただき、道の駅季楽里あさひの取り組みを全体的に知ることが出来た。
- ・地域の方々と接している姿や、他のブースとの関わり合いを目にして、人の温かみは重要だと感じた。

道の駅「季楽里あさひ」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：平成30年8月10日（金）～8月19日（日）【8日間】
- 実習生：帝京大学 学生1名
- 実習内容：①レストランや花売り場でのお手伝い
②加工室での調理補助
③レジ体験、野菜のパック詰め等
④イベントでの金魚すくい店番

取組状況



<お寿司づくりの実施状況>



<金魚すくいの実施状況>



<花の水やりの実施状況>

道の駅「季楽里あさひ」インターンシップ結果概要②



実習成果

- ・道の駅を持つ機能、役割について理解できた。
- ・普段のアルバイトでは経験できない仕事ができる。
- ・職員の方やお客様の話聞くことで、旭市の魅力を知ることができた。
- ・仕事の上でのコミュニケーションの大切さを学ぶことができた。
- ・慣れない場所でも、積極的に仕事を見つけて行動する力がついた。
- ・インターン生という視点から、良い所や惜しい所を見つける力がついた。
- ・販売されている食品やお花にどれだけのこだわりが詰まっているか、知ることができた。
- ・ものづくりだけでなく、それを売る際の戦略も学ぶことができた。
- ・普段何気なく食べている野菜や果物に興味を持つようになった。

実習を終えて

- ・お盆の時期なので忙しい反面、道の駅らしい賑やかな雰囲気の中で実習ができて良かった。
- ・特に、イベント「夕涼み会」に携われたのは、貴重な経験だった。
- ・道の駅が人々に頼りにされている場所だと実感した。
- ・職員とお客様の距離が近く、あたたかい雰囲気だと感じた。
- ・短期間で、自分の知らない土地を深く理解し、好きになるという経験ができた。

道の駅「鴨川オーシャンパーク」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：平成30年8月8日（水）～8月28日（火）【20日間】
- 実習生：専修大学 学生1名
- 実習内容：①イベントでの販売補助
 - ②近隣の道の駅の視察
 - ③夏みかんシロップ作り
 - ④近隣へパンフレット配り、清掃（店内、駐車場、海岸）、レジ打ち

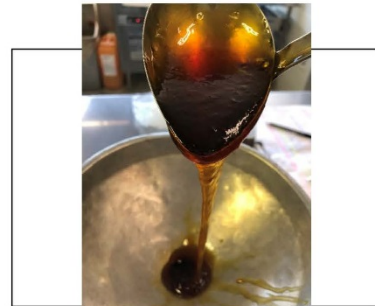
取組状況



<イベントの実施状況>



<近隣駅視察の実施状況>



<シロップ作りの実施状況>

道の駅「鴨川オーシャンパーク」インターンシップ結果概要②



実習成果

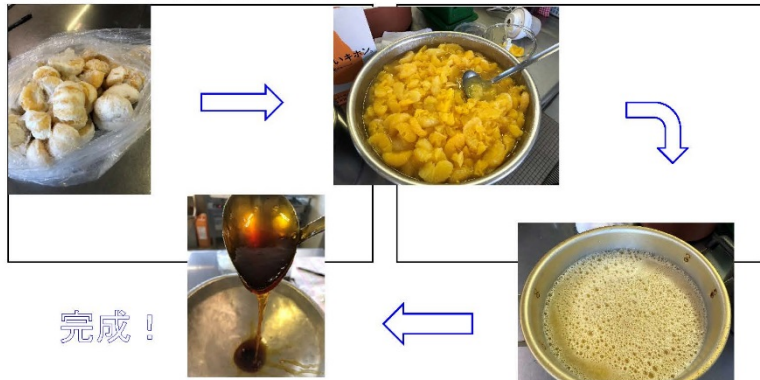
- 道の駅の運営方法・役割・販売方法
- 道の駅の店長の仕事内容
- 近隣駅との違い
- イベントに関して（季節ごとに様々なイベント、準備、生産方法 [今回はイカ、かき氷]、販売方法
- 地元の果物を使ったシロップの生産方法

～などを理解

実習を終えて

・インターンシップを行う前の想像より地域との連携が多いため仕事内容が多く多様であった。約18年間過ごした街であり、あまり大きな街ではないため知っていることも多いかと思っていたが、客観的な視点ではなく実際に業務に携わることで新たな発見、理解する場面が多くあり以前から住みやすく良い街だと感じていたが改めて感じる事ができた。道の駅についての知識を身につけたため、今後道の駅に寄った際は今までとは違った見方をし、様々な道の駅に行ってみたいと思った。今後も地域振興に貢献したいと思っているため、地元のことを学べる機会やイベントには積極的に参加し、アイデアを提案したいと思った。

・夏みかんシロップができるまで



完成!

道の駅「池田温泉」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：平成31年2月6日（水）～2月10日（日）【5日間】
- 実習生：大阪観光大学 学生1名
- 実習内容：①道の駅の概要
②業務研修
③イベント準備
④イベント

取組状況



<足湯の実施>



<イベント準備の実施状況>



<イベントの実施状況>

道の駅「池田温泉」インターンシップ結果概要②



実習成果

- ・道の駅とは、地域を活性化させるひとつの施設でもある。
- ・各テナントが各自でお店を営業している。
- ・道の駅に来て、わかりやすいようテナントマップが設置されている。
- ・各テナント同士協力してイベントの準備、イベント当日、片付けなど行われていた。



実習を終えて

- ・私がお世話になった道の駅は、他とは少し違い、各テナントが店を管理し、道の駅自体は全体的にサポート、管理を行っていると感じました。
- ・実際にイベントに参加させてもらい、非常に貴重な体験をさせていただきました。作戦会議から始まり、何が必要か予算はどれぐらいなのか、どのような客をターゲットにしていかなどすごく勉強になりました。

道の駅「伊豆のへそ」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：平成31年2月6日（水）～2月10日（日） 【5日間】
- 実習生：大阪観光大学 学生1名
- 実習内容：①品出し
②きのこ汁の販売
③レジ

取組状況



<お土産の品出し>

道の駅「伊豆のへそ」インターンシップ結果概要②



実習成果

- 道の駅ならではのお土産や新鮮な野菜を品出ししました。
- レジは大型バスが来ると忙しくなるので臨機応変に対応しました。
- きのこと汁の販売ではたくさんのお客様に買っていただきました。



実習を終えて

- 道の駅では地元の方だけでなく観光客の方も多く見受けられた。
- 海外からの観光客も多く外国人が道の駅というものを利用していて意外に思った。
- 感謝の気持ちを忘れず接客することが出来て良かった。
- また店側の販売の工夫も学ぶことが出来たので良かった。



道の駅「奥伊勢おおだい」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：平成30年8月27日（月）～ 8月31日（金）【5日間】
- 実習生：帝京大学 学生1名
- 実習内容：①来場者対象のアンケート調査
 - ②アンケートデータ整理
 - ③集荷の手伝い・商品の陳列
 - ④部署リーダーとのディスカッション

取組状況



<アンケート調査の実施状況>



<アンケートデータ整理の実施状況>



<商品の陳列の実施状況>



道の駅「奥伊勢おおだい」インターンシップ結果概要②



実習成果

■身についたこと

- ・道の駅の業務を知ることができた
- ・アンケート調査を通して、道の駅の現状を知り、考察することができた
- ・自分の進路を考える良いきっかけになった
- ・コミュニケーション能力が身についた

集荷をしているところ



農園の見学



実習を終えて

インターンシップを通して、2つ今までに経験したことのない体験をすることができた。1つ目はアンケート調査。利用客に自ら話しかけアンケートに答えてもらった。アンケート結果をもとにお客さんの年齢層や男女比を分析し、考察・提案をすることができた。2つ目は集荷の手伝い。私は農業に全く馴染みがなかったので全てが新鮮だった。農家の方とお話したり、仕事場を見たりしたことで自分の視野が広がった。この2つの貴重な体験を今後の就職活動に活かしていきたい。

道の駅「北はりまエコミュージアム」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：平成30年8月20日（月）～8月26日（日）【5日間】
- 実習生：神戸学院大学 学生1名
- 実習内容：①店内での全般的な仕事（レジ補助、品出し、接客など）
②お客様にアンケート調査とその結果のまとめ
③POP作成、SNS投稿
④バスツアーの参加

取組状況



<閉店作業の実施状況>



<レジ補助の実施状況>



<レンタルサイクルの手入れの実施状況>

道の駅「北はりまエコミュージアム」インターンシップ結果概要②



実習成果

- ・道の駅が行う地元活性化の取り組み
- ・社会人と学生の責任感の差
- ・接客における人間関係

・お客様にインタビュー調査の様子



・バスツアーでのサツマイモ掘



実習を終えて

- ・地元の活性化のために、地元の方々と協力して取り組んでいることを学んだ。その中で人間関係の大切さや、地元愛を感じた。
- ・学生の自分と社会人として働く道の駅の方々の違いを実感した。短い期間だったが、自分の甘さと未熟さを感じるとともに、人間関係や責任感の面での成長があったと思う。

道の駅「ふたかみパーク當麻」インターンシップ結果概要①



実習概要

○実習期間：平成30年8月21日（火）～8月23日（木）【3日間】

○実習生：大阪観光大学 学生1名

○実習内容：①味噌作り

取組状況



<米に麹菌をつけた熟成前>



<熟成後に完成した米麹>



<米麹と大豆を混ぜている状況>

道の駅「ふたかみパーク當麻」インターンシップ結果概要②



実習成果

- ・味噌について深く知る事ができた
- ・食と向き合えた実習になった
- ・普段体験できないことを体験する事ができた
- ・味噌がより好きになった



実習を終えて

私は普段から味噌はよく使うことが多く、大好きなのですが市販で売っている味噌しか食べた事がなかったので、今回一から味噌作りを体験してみて、まず一番初めに麴作りからはじまり、味噌に麴がはいっているということにびっくりしました。味噌が完成してお店に出されるまで、たくさんの方の苦勞と努力があり、それを経ておいしい味噌が完成するという事を学びました。味噌を一から手作りして販売している道の駅は珍く、大豆と麴と米しか使用していないので、市販の味噌とは違って保存料など使われていないところがふたかみパーク當麻の味噌の魅力だと思いました。そしてなにより、ふたかみパーク當麻で働いている方々がすごく親切であたたかくてこれからも、一期一会を大切にしようと思改めて感じたことができた実習になりました。

道の駅「ふたかみパーク當麻」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：平成30年8月21日（火）～8月23日（木）【3日間】
- 実習生：大阪観光大学 学生1名
- 実習内容：①水きり、米蒸、発酵。
②切り返し、豆洗い。
③豆を煮る、麹菌との混ぜ合わせ。

取組状況



<米をざるにあげ水を切っている状況>



<米を蒸している状況>



<米に麹菌を付けて混ぜている状況>

道の駅「ふたかみパーク當麻」インターンシップ結果概要②



実習成果

- ・洗った豆を煮る。そのあとミートグラインダーの中にペースト状にする。
- ・発酵した米と一緒にラージミキサーの中に入れ、塩を加えてよく混ぜていく。混ぜる作業は約15分間。
- ・その後、大豆と米の混合物を取り出し、それを手で丸いボールのサイズを作ってからプラスチック製のバケツに入れる。



実習を終えて

- ・味噌作りの間、他のさまざまな味噌を使って作られた當麻しかない食べ物（梅干しや味噌が加えている焼肉タレ、食品包装作業など）作り作業も体験しました。
- ・私が日本へ来て今年で五年目ですが、学校食堂の「唐揚げ定食」の味噌汁しか味噌を飲んだことがありませんでした。味噌は何を使って作ったのかも知りませんでした。中国の味噌と同じ大豆が入ってるのが少しわかったんですが、米も入ってるのがわかった時、本当に驚きました。
- ・この3日間は道の駅の中で色々な食べ物の作り方がわかりました。味噌と梅干しは日本人にとって大事な食べ物がわかりました。しかし、作るのが大変で、時間もとてもかかります。食べ物に大事にしないとイケないと思いました。

道の駅「青洲の里」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：平成30年8月9日（木）～8月13日（月）【5日間】
- 実習生：大阪観光大学 学生1名
- 実習内容：①レストランの受付表記入
②商品棚の整理
③商品のラッピング
④展示室の清掃 など

取組状況



<受付表記入の実施状況>



<手作りジャム>



<青洲の里 ボールペン>

道の駅「青洲の里」インターンシップ結果概要②



実習成果

- ・商品のラッピングが容易にできるようになった。
- ・ソフトクリームが巻けるようになった。
- ・華岡青洲について前より知識が増えた。

・春林軒 入口



・ラッピングの様子



実習を終えて

とても難しかったですが、ソフトクリームを巻けるようになったことは、一つスキルアップしたようで嬉しいです。紀の川市は、新鮮なフルーツや野菜など特産品が多く、指定文化財や重要文化財に指定されている施設があることを知りました。華岡青洲が実際使っていた春林軒の主屋や、遺品や資料が展示されている展示室の見学ができ、とても貴重な実習体験になりました。華岡青洲は6つの薬草を使って「通仙散」という薬を作ったということを知ることができました。

道の駅「小豆島ふるさと村」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：平成30年8月19日（日）～9月6日（木）【19日間】
- 実習生：岡山理科大学 学生1名
- 実習内容：①キャンプ場にてチェックアウト受付、ゴミの分別作業
②スノードーム、フォトフレーム、ハーバリウムの制作手伝い
③喫茶コーナーで接客業務
④カヤック体験

取組状況



< キャンプ場の実施状況 >



< カヤック体験の実施状況 >



< フォトフレーム製作の実施状況 >

道の駅「小豆島ふるさと村」インターンシップ結果概要②



実習成果

- 主な活動
・利用者が快適に過ごせるよう準備や片付けを行った
- 接客について
・様々な部門で幅広い年代の利用者にあつた接客をすることを学んだ

・レジ業務



・梱包材準備



実習を終えて

道の駅の利用者の中には観光客だけでなく地元の方もいることから、マニュアルによるサービスの工業化が起きないように心がける必要があると考える。常に周りを見て臨機応変に対応する力が自分に足りないことだと感じた。これからの生活で意識して身につけていこうと思う。

実習概要

- 実習期間：平成30年8月2日（木）～8月15日（水）【12日間】
- 実習生：立教大学 学生1名
- 実習内容：①農業収穫体験・漁業栽培視察
②島の魅力発見・松山市の観光政策についての視察
③手作り加工品体験・今治市の方との意見交換会

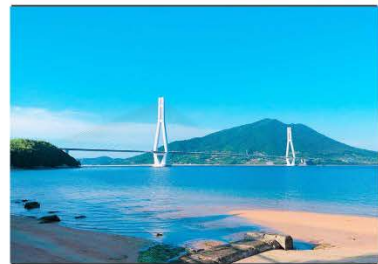
取組状況



<農業収穫体験の実施状況>



<手作り加工品体験の実施状況>



<島内の魅力発見の実施状況>

実習成果

「SNSを利用した情報発信」

・道の駅の公式FaceBookで多くの人の目に留まるような投稿を心がけて目を引く写真や文章、色合いなどを考慮しながら道の駅のイベント情報や実習内容などをメインに、毎日更新した。その結果閲覧数やアクセス数が従来と比べて上がった。

・まるごとみかんケーキ



・島内探索で見つけた島の絶景



実習を終えて

大三島は豊かな自然と親切であたたかい島民の方々がとても魅力的で、時がゆったりと流れるような暮らしをすることができる島でした。また、地域活性化のためや愛媛県中心地と大三島を結ぶ橋の利用料が高いということもあり、道の駅でも野菜や果物、草花や手作り品など全て島内で生産されたものみの販売といったような「地産地消」にこだわっているところが多く、島全体が一体となって地域作りに取り組んでいるように感じました。より多くの人に素敵な大三島を知って欲しいです。

実習概要

- 実習期間：平成31年2月28日（木）～3月4日（月）【5日間】
- 実習生：大阪観光大学 学生1名
- 実習内容：①町古閑牧野で草原トレイルウォーク体験の取材
②熊本テレビの取材
③草千里で野焼きの取材
④阿蘇神社での取材
⑤大観峰、阿蘇ジオパークガイド、火口、南阿蘇での取材

取組状況



<野焼きボランティアにインタビュー>



<野焼きの情報を収穫>



<草原でフリスビーの体験>

実習成果

- ・阿蘇道の駅の日本語とベトナム語のブログ（5日間の体験）を作成することができた。
- ・取材の仕事を経験することができた。
- ・阿蘇について詳しく知ることができた。

草原トレイルウォーク



野焼きの写真取材



実習を終えて

- 1週間は短かったですが、勉強することが多かったです。
- 道の駅「阿蘇」で観光に関すること、阿蘇の歴史、阿蘇ならではの料理（高菜ご飯、だご汁など）を知ることができ、また阿蘇の野焼き実際に見ることができ、貴重な経験になりました。
- 以前、記者になりたいと考えたこともあったので、興味深く取材作業を経験しました。
- 熊本地震を経験した地域の人から聞かせてもらった、いろいろなお話が印象に残っています。

実習概要

- 実習期間：平成30年9月3日（月）～9月14日（金）【11日間】
- 実習生：長崎県立大学 学生1名
- 実習内容：①展示販売業務（レジ等）
②総合案内業務
③サテライト視察
④店内清掃

取組状況



<阿蘇山視察の実施状況>



<米塚視察の実施状況>



<宮地駅周辺視察の実施状況>

実習成果

- - ・阿蘇のサテライト視察に行き、阿蘇の魅力を新たに知ることができた。
 - ・接客をするうえで、大きな声を出し、笑顔で対応することの大切さを実感した。
 - ・お客さんをはじめ、職員の方と話す機会が多く、最初はなかなか自分から話せなかったが次第に自分から話せるようになった。

・阿蘇山の視察



・店内の整理整頓



実習を終えて

- ・地元の人との商品の共同開発や販売など、地域間の連携が強いということを改めて実感した。
- ・阿蘇の観光地の視察をさせていただき、阿蘇の自然や歴史・食文化などに触れ、貴重な経験をさせていただいた。阿蘇の魅力を今以上に発信していこうと思った。
- ・インターンシップでは有意義な時間を過ごすことができ、今以上に観光に関心が高まった。

(5) 基本協定（ひな形）、各様式等

「道の駅」就労体験型実習の実施に関する基本協定

一般社団法人全国道の駅連絡会（以下「甲」という。）と〇〇〇大学（以下「乙」という。）は、乙の所属学生（以下「学生」という。）が、「道の駅」において就労体験型実習を行うことについて、下記のとおり協定を締結する。

記

第1 目的

「道の駅」における就労体験を通じて、学生が実践的に学習するとともに、もって、活動の舞台となる「道の駅」の活性化の好循環に資することを目的として、「道の駅」就労体験型実習（以下、単に「実習」という。）を行う。

第2 就労体験型実習実施に係る基本的役割等

甲は、全国の「道の駅」を対象として、実習の実施内容等を取りまとめ、乙に提示の上、学生を受け入れる「道の駅」の決定を行う。

乙は、甲の提示する実習内容に基づき、派遣する学生を推薦する。また、受入が決定された学生に対し、実習中の遵守事項を周知するとともに、実習を円滑に進めるため必要な指導及び監督を行う。

第3 諸条件

実習の実施にあたって、必要な事項は学生を受け入れる「道の駅」と乙の間で別途定めるものとする。

第4 協議

本協定に定めがない事項又は本協定に疑義が生じた事項については、甲と乙が協議の上決定するものとする。

本協定の締結を証するため、本書2通を作成し、甲及び乙が記名捺印のうえ、それぞれ1通を保管するものとする。

令和 年 月 日

甲 一般社団法人全国道の駅連絡会会長 南房総市長 石井 裕

乙 〇〇〇大学学長【学部長等でも可】 〇〇 〇〇

(別添1)

実習計画書

実習実施 「道の駅」	道の駅名	道の駅
実 習 生	所属大学等名	
	氏 名	
「道の駅」 担当者	職 名	
	氏 名	
実習計画	目 的	
	月 日	内 容

※大学担当者と「道の駅」担当者の間で協議・検討し、実習内容を決定すること。

※必要に応じて、実習計画書の体裁を変えても良い。

(別添2)

「道の駅」就労体験型実習に関する覚書

道の駅「●●●」(以下「甲」という。)と〇〇〇大学(以下「乙」という。)は、別記「道の駅」就労体験型実習生名簿に記載されている乙の所属学生(以下「学生」という。)が、甲において就労体験型実習(以下「実習」という。)を行うことについて、下記のとおり覚書を締結する。

記

第1 実習実施に係る基本的役割等

甲は、別記のとおり学生に実習させることを目的として受け入れ、学生に対し必要な指導・助言を行う。

乙は、学生に対し、本覚書に定める事項を周知するとともに、実習を円滑に進めるため必要な指導及び監督を行う。

第2 実習時間、手当等の支給及び事故への対応等(道の駅と大学で協議し内容を決定)

(1) 実習時間は、午前〇時〇〇分から午後〇時〇〇分まで(以下「定時」という。)とし、このうち午後〇時から午後〇時までを休憩時間とする。ただし、〇〇〇にあつては、実習時間は、午前〇時〇〇分から午後〇時〇〇分までとし、このうち午後〇時〇〇分から午後〇時までを休憩時間とする。なお、定時以外にも実習を行うことがある。

(2) 甲は、実習中、学生に対し、通勤費(自宅又は滞在先より)を原則支給しない。また、手当(日当)、食費及び旅費(滞在先までの往復旅費)は必要に応じて甲の原則負担とする。

(3) 乙は、実習中における関係他者(甲、人物、財物等)に対する法律上の損害賠償責任を負担することによって被る損害を補償できるよう、学生に損害賠償保険等に加入させ、保険等の写しを甲に提出させることとする。

(4) 学生の実習期間中の災害及び通勤に際しての災害については、学生の自己責任で損害を負担するものとし、また、乙が誠意をもって問題の解決にあたるものとする。

第3 実習中における遵守事項等

(1) 学生は、実習に関する甲の指示に従い、実習期間中は実習に専念し、甲又は他の「道の駅」の信用を傷つけ、又は不名誉となるような行為を行ってはならない。

(2) 実習の欠務は、正当な事由による場合以外は認めない。やむを得ず欠務する場合は、事前に甲に申し出てその指示に従うこととする。正当な事由による場合であっても2日以上欠務した場合、甲は、実習を打ち切ることができることとする。

(3) 学生は、甲における実習活動中に知り得た情報(公開されているものを除く。)の開示については、甲の指示に従わなければならない。実習終了後においても、同様とする。

(4) 学生は、実習期間終了後2週間以内に、実習内容に関する報告書(様式自由)を作成し、甲に提出しなければならない。

(5) 学生は、実習の成果を論文等により発表する場合(乙の所属学生又は教職員のみ発表する場合を除く)には、事前に甲の承認を受けなければならない。

(6) 甲は、学生がこの覚書に従わない場合、その他実習を継続しがたい事由が生じた場合は実習を打ち切ることができる。甲は、実習を打ち切った場合は、速やかに乙にその旨を通知する。

第4 誓約書の提出

学生は、実習に先立ち、甲に対して誓約書（別添3）を提出する。

第5 協議

本覚書に定めがない事項又は本覚書に疑義が生じた事項については、甲と乙が協議の上決定するものとする。

本覚書の締結を証するため、本書2通を作成し、甲及び乙が記名捺印のうえ、それぞれ1通を保管するものとする。

令和 年 月 日

（日付は、空欄。当方において本覚書を受領した日付を記入し、貴職へ返送致します。）

甲 道の駅「●●●」責任者（首長、駅長等） ●●●●

乙 ○○大学・・・・・・ ○○ ○○
（総括責任者）

別 記

「道の駅」就労体験型実習生名簿

受入部署名	受入開始日	受入終了日	学部・学科	氏 名

(別添3)

誓 約 書

道の駅「●●●」責任者 殿

道の駅「●●●」において就労体験型実習を行うに当たり、「道の駅」設置者（自治体等）が定める就業体験実習に関する実施要領等を理解し、実習生として下記のとおり遵守することを誓約します。

記

1. 実習期間中は専ら所定の実習に従事し、実習目的の達成に努めること。
2. 実習期間中は「道の駅」職員が遵守すべき法令及び規則を遵守するとともに、実習生としての活動について「道の駅」担当者の指導、監督等に従うこと。
3. 実習期間中は、特定の政治政党、宗教、企業、団体の利益のための行為を行わないこと。
4. 「道の駅」における実習活動中に知り得た情報(公開されているものを除く。)の開示については、「道の駅」担当者の指示に従うこと。実習終了後においても、同様とすること。
5. 実習終了後2週間以内に、実習内容に関する報告書(様式自由)を作成し、「道の駅」担当者に提出すること。
6. 実習の成果を論文等により発表する場合(乙の所属学生又は教職員のみ発表する場合を除く)には、事前に「道の駅」責任者(駅長等、「道の駅」設置者が設定)の承認を受けること。
7. 病気等のため予定されていた実習を受けられない場合は、あらかじめ、「道の駅」担当者にその旨を連絡すること。やむを得ない場合は、事後速やかに「道の駅」担当者とその旨を連絡すること。

令和 年 月 日

大 学 等 名 学 生 氏 名 印

(別添4)

就労体験型実習受入結果報告

道の駅名	道の駅				
担当者名					
実習生名					
大学学部名等	大学	学部	学科	年	
期 間	月	日	～	月	日
出席状況	出席	日	・	欠席	日
	遅刻	日	・	早退	日
評価項目		評価	特記事項		
実習生の 実習態度	規律正しい態度であり、実習中支障がなかった	A・B C・D			
	業務内容の的確な理解ができていた	A・B C・D			
	業務内容に適応した行動であった	A・B C・D			
	目的意識をもって意欲的に取り組む姿勢が見られた	A・B C・D			
就労体験型実習で得られた成果（アウトプット）					
1. 顕著な成果が得られた 2. 成果が得られた 3. あまり成果がなかった					
就労体験型実習の波及効果・良い影響（例 職場が明るくなった、職員の IT スキル向上 等）					
今後の改善点					
その他（感想・良かった点等自由にご記入ください。）					

評価：A（優れている） B（やや優れている） C（普通） D（劣っている）の4段階

3. 平成30年度 連携企画型実習結果

(1) 連携企画型実習状況

平成30年度においては、全国28箇所の「道の駅」と24大学との間で、連携企画型実習が実施されました。

表-5 平成30年度 連携企画型実習状況一覧

道の駅名	都道府県	大学名	道の駅名	都道府県	大学名
安達	福島県	福島大学	どんぐりの里 いなぶ	愛知県	愛知学泉大学
常陸大宮	茨城県	茨城大学	紀宝町ウミガメ公園	三重県	鈴鹿大学
ひたちおおた	茨城県	いばらき地域づくり大学、 高専コンソーシアム	パーク七里御浜	三重県	鈴鹿大学
もてぎ	栃木県	跡見学園女子大学	竜王かがみの里	滋賀県	滋賀短期大学
どまんなかたぬま	栃木県	佐野日本大学短期大学	アグリパーク竜王	滋賀県	滋賀短期大学
いちごの里 よしみ	埼玉県	立教大学	京丹波町道の駅連絡協議会 (丹波マーケス、京丹波味夢の 里、瑞穂の里・さらびき、和)	京都府	大阪大学
果樹公園あしがくぼ	埼玉県	淑徳大学	吉野路 大塔	奈良県	帝塚山大学
おがわまち	埼玉県	城西大学	風早の郷風和里	愛媛県	愛媛大学
鴨川オーシャンパーク	千葉県	城西国際大学	みえ	大分県	別府大学
めぐみ白山	石川県	金沢星稜大学	つの	宮崎県	宮崎大学
あおき	長野県	長野大学	ぎのざ	沖縄県	名桜大学
中条	長野県	松本大学	許田	沖縄県	名桜大学
賤母	岐阜県	名古屋外国語大学			

※1 上記大学数は重複数を除いた合計である。

※2 いばらき地域づくり大学・高専コンソーシアムは4大学とするが、茨城大学は重複しているため※1に基づき合計数は1減としている。

(2) 平成30年度 連携企画型実習結果概要

道の駅「安達」と福島大学との連携①





道の駅「安達」と福島大学の学生が連携して、二本松市・市民・地元商工業者も巻き込み、地域活性化を目的とした芸術祭の企画・運営および商品開発を実施

『芸術祭の開催による地域活性化プロジェクト』

●「重陽の芸術祭」実行委員会

- ・平成30年4月10日 テーマ、企画内容の検討
- ・平成30年5月30日 小松美羽展とPRIについて他
- ・平成30年6月25日 小松美羽展とPRIについて他
- ・平成30年9月14日 各施設準備等進捗について
- ・平成30年9月26日 各施設進捗確認について

●イベント開催
平成30年9月9日～11月25日

『芸術祭の概要』

- 重陽とは
9月9日は、五節句のひとつ「重陽の節句」
菊を用いて不老長寿を願うことから別名「菊の節句」
命を尊び、風情溢れる節句
二本松市 日本三大菊人形・美味しい地酒・黒塚伝説・智恵子抄
⇒重陽の節句に相応しい地
- 道の駅安達および二本松市内各施設におけるイベント
 - ・美術品の展示(道の駅安達、大山忠作美術館、市民交流センターほか)
 - ・ワークショップ(道の駅安達「下り線」、二本松市立油井小学校)
(「工房」「作業場」など協働で仕事を行う「場」教育研修の手法で参加体験型のグループ学習)
 - ・シンポジウム(二本松市市民交流センター)
(聴衆の前で、特定の問題について何人かが意見を述べ、参加者と質疑応答を行う形式の討論会)
 - ・黒塚 今様(琴、箏、ハープなどの演奏とダンスのコラボ)(安達ヶ原ふるさと村)
- オリジナル商品
 - ・重陽カラー(道の駅・安達ヶ原ふるさと村期間限定販売)
 - ・招待アーティスト作品とのコラボ商品(道の駅・安達ヶ原ふるさと村で限定販売)
 - ・記念Tシャツ(道の駅・安達ヶ原ふるさと村・大山忠作美術館で限定販売)



オリジナル商品の開発・販売

国立福島大学
国立大学法人。福島経済専門学校(旧福島高等商業学校)、福島師範学校、福島青年師範学校を統合して、1949年新制大学として発足した。今回、人間発達文化学類 渡邊昇一教授の協力をいただき開催。渡邊教授は、福島ビエンナーレ(福島文化センター、福島空港ほか)芸術企画監修を行い、地域の文化創造支援もしている。福島県「八重の桜」などのキャラクター審議委員もつとめる。

道の駅「安達」 智恵子の里
『智恵子抄』で有名な高村光太郎の妻、高村智恵子生誕の地。『ほんとうの空』のもと、全国でも珍しい上下線ともにある道の駅特徴として、上り線に千年の歴史を持つ上川崎和紙を体験できる施設があり、下り線には50種類以上ある焼き立てパンを毎日販売している。広い芝生広場もあり上下線とも一日中楽しめる道の駅です。

道の駅「安達」と福島大学との連携②



平成30年度 取組み内容：道の駅と二本松市内を会場にしたイベントの企画・運営

美術品の展示 (会場：道の駅安達、大山忠作美術館、二本松市市民交流センター、霞ヶ城天守台ほか)

○道の駅「安達」智恵子の里 下り線 開催期間：9月9日～11月23日

ワタリドリ計画(麻生知子・武内明子)展示



ワタリドリ計画 (麻生知子・武内明子)

○大山忠作美術館 開催期間：10月7日～11月4日

小松美羽 展示



小松 美羽



市民ギャラリー 小松美羽作品展示の様子

○智恵子の生家 開催期間：10月13日～11月25日

福井利佐 展示



福井 利佐




大山忠作美術館 小松美羽作品展示の様子



智恵子の生家 展示の様子



ワークショップ

○二本松市立油井小学校 開催日：平成30年9月28日
 テーマ『切り絵によるワークショップ』 福島大学生サポート



油井小学校



ワークショップの様子



切り絵アーティスト 福井利佐

○道の駅「安達」下り線 開催日：平成30年10月20日
 テーマ『二本松の絵葉書』 福島大学生サポート



ワークショップの様子



ワタドリ計画(麻生知子・武内明子)



道の駅「安達」下り線

重陽の芸術祭がきっかけのオリジナル商品

重陽の芸術祭オリジナル商品

芸術祭期間限定でのオリジナル商品販売



表

裏

福井利佐 デザインTシャツ



重陽の芸術祭バッジ
 (福井利佐デザイン)



大七酒造コラボ商品
 (福井利佐デザイン)



重陽カレー
 (道の駅安達・安達ヶ原ふるさと村
 期間限定販売)

【取組の概要】

魅力的な地域資源を発掘し、道の駅から発信します。

- (1)魅力を体感できるイベント・ツーリズムの企画
- (2)特産物を使った商品開発
- (3)情報発信、PR

【検討の流れ・概要】

- ①地域資源である竹林・竹の価値の見直し。
- ②かわプラザの竹あかり:竹をいかしたイベントを企画。ライトアップイベントや地域住民、地域資源を巻き込んだイベントづくりを行った。
- ③空間の商品化論を援用した連携活動

【茨城大学人文地理学Ⅰゼミナール】

小原ゼミでは、持続的な地域システムの構築という視点から、ツーリズム(観光・交流)による地域活性化をテーマに研究を行っている。また、常陸大宮市や常陸太田市、笠間市、高萩市などの地域連携活動を通して、地域活性化についての知識をさらに深める活動を行っている。

【道の駅常陸大宮】

茨城県内の12か所目の道の駅として、2016年3月に開業した。重点「道の駅」にも登録されており、洋野菜を使ったレストランや体験農園がある。道の駅沿いには久慈川が流れていて、川を見ながら休憩できる特徴がある。道の駅を拠点として地域活性化に取組む市民グループなどが育ち始めている。

平成30年度 取組み内容：道の駅「常陸大宮」との連携活動について

かわプラザの竹あかり

(2018年10月13日(土)/10月14日(日) 計2日間)

- 竹あかりライトアップ(2日間で延べ約6000基)・演奏会・プレイベント



竹あかりを並べる学生と地域住民



着火を行う学生と地域住民



地元のお囃子団体による演奏



プレイベントの様子

- ワークショップ・えごま油モニター調査・竹炭づくり



竹の子クラブによる
風車ワークショップの様子



地域資源であるえごま油の
モニター調査の様子



竹炭づくりの様子①



竹炭づくりの様子②

- ・2日間で延べ6,000個の竹あかりが道の駅を照らすライトアップイベントを実施。
- ・今年は地域住民との連携の他に、地域資源の活用や、新たな地域資源の誕生につながるイベントとなった。(えごま油、竹炭、お囃子等)。
- ・「スタードーム」の天幕に絵を描く地元の子供対象のプレイベント(9/9)の他に、ライトアップで使用した竹を使い竹炭づくり(10/19)を実施。資源を再利用することで循環型のイベントとし、新たな地域資源の可能性を見出した。

道の駅「ひたちおおた」といばらき地域づくり大学・高専コンソーシアムとの連携①

“学生による道の駅支援事業” 平成30年度参加校：茨城大学、茨城キリスト教大学、茨城女子短期大学、常磐大学



道の駅「ひたちおおた」と「いばらき地域づくり大学・高専コンソーシアム」が連携して、道の駅をはじめとする地域情報発信の強化、コンソーシアム参加校各校の強みや特色を活かした新たな魅力の発掘の取り組むもので、道の駅とコンソーシアムが連携して取り組む事例は全国初となります。

現状把握と課題の整理

実施日時：平成30年6月25日

於：道の駅ひたちおおた体験交流室

道の駅ひたちおおたのオープンから現在までの取り組み、実績等の説明後、私たち学生が取り組めることは何か？意見交換を実施



「道の駅ひたちおおた」の課題

・観光シーズンが落ち着く冬季に集客が苦戦する傾向にある

今年度の活動目標

参加校の日々の学びを活かした冬季の集客増を目指す

【いばらき地域づくり大学・高専コンソーシアム】

「いばらき地域づくり大学・高専コンソーシアム」は、地方創生に関し大学・高専に求められる役割を主体的かつ積極的に果たすとともに、茨城県に所在する大学・高専が関係を深め、茨城県及び県内地方公共団体、並びに産業界等と連携・協働して地域の振興に寄与し、「いばらき」の発展に資するため、平成27年3月に県北・県央地域の4大学・高専で設立された団体。

その後、県全体で取り組むべき課題に対応する必要性から、平成28年8月に新たに9校が加わり、計13校での組織化が図られた。各校の特色を活かし、様々な分野における活動に取り組んでいる。

【いばらき地域づくり大学・高専コンソーシアム会員校】（平成29年1月現在・13校）

①茨城大学（水戸市）・②茨城キリスト教大学（日立市）・③茨城県立医療大学（阿見町）・④茨城工業高等専門学校（ひたちなか市）・⑤茨城女子短期大学（那珂市）・⑥筑波大学（つくば市）・⑦筑波学院大学（つくば市）・⑧筑波技術大学（つくば市）・⑨つくば国際大学（土浦市）・⑩常磐大学（水戸市）・⑪日本ウェルネススポーツ大学（利根町）・⑫放送大学（茨城学習センター）（水戸市）・⑬流通経済大学（龍ヶ崎町）

【道の駅ひたちおおた】

茨城県内の13カ所目の道の駅として、平成28年7月に開業した。JA常陸が運営する農産物直売所をはじめ、旬の食材を使ったレストラン、カレーや常陸秋そばなどが楽しめるフードコート、年間を通してトマトの摘み取り体験ができる「体験は場 トマトハウス」が特徴。



道の駅「ひたちおおた」といばらき地域づくり大学・高専コンソーシアムとの連携②

“学生による道の駅支援事業” 平成30年度参加校：茨城大学、茨城キリスト教大学、茨城女子短期大学、常磐大学



平成30年度 取り組み内容：冬季の集客増を目指したイベント

「良いものキューっ詰まっていますin道の駅ひたちおおた」開催（平成30年12月16日）

コンソーシアムの取り組み



茨城大学：しょうぶるまん（常陸太田市特産品里川カボチャを使用した中華まん）販売



茨城キリスト教大学：JA常陸と地元食材を用いて共同開発した里美ジェラート（ペにはるか&あずき、栗&緑茶）販売



茨城女子短期大学：イベントPRチラシ作成、常陸太田市内に伝わる民話（6編）の朗読会開催および民話リーフレット、民話マップの配布



常磐大学：常陸太田市特産品里川カボチャを使用したプリン、常陸太田市産品苺を使用した苺VIVIO販売



成果

各校の日々の学びを活かした独自企画を実施することで、道の駅の冬季の賑わい創出と地域活性化に貢献



道の駅「もてぎ」と跡見学園女子大学との連携①



道の駅「もてぎ」から、道の駅を核とした循環型の地域振興を学ぶ。

■これまでの取組み

●1年目

- ①地域資源の発掘
- サケの遡上
- ②顧客価値
- 大自然でのPR
- ③事業モデル化
- S Lの知名度向上
- ④集客の仕組み
- 大手旅行会社と連携



●2年目

- ①地方創生
- 農業と観光の結びつき、六次産業化
- ②広域観光
- 茂木町とツインリンクもてぎの連携
- ③ビジネスモデル
- 地域センターとしての機能、繁盛の秘訣
- ④道-1グランプリ
- 初代グランプリに



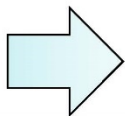
●3年目

- ①地域振興
- 「道の駅もてぎ」のオリジナル商品
通信販売 促進
- ②道-1グランプリ
- グランプリ受賞！二連覇達成



■テーマ

道の駅「もてぎ」を核
とした地域振興を学ぶ



- ①茂木町の1次産業の6次産業化を学ぶ（地産地消やブランド化）
- ②茂木町オリジナル地域循環型地域振興
- ③茂木町の移住・定住の現状

【跡見学園女子大学】

1875（明治8）年の「跡見学校」創立以来の140年の歴史ある伝統校で、実践的な教養を備え、自立した女性を育成するための教育・研究を実現することを教育理念としています。創立当初より社会での実践を重視する教育、「教育実践」を行っており、この「教育実践」の一つであるインターンシップ（就業体験）において、参加学生数と参加率で全国女子大学第1位の成果をあげています。連携に参画している「観光コミュニティ学部」は、「観光」と「コミュニティ」の両面から地域を活性化させることのできる「デザイン能力」をもった女性の育成を目指し、平成27年度から新しく開設されました。観光マネジメント学科の学生が「大学生観光まちづくりコンテスト」で平成29・30年度、2年連続でグランプリ（観光庁長官賞）を受賞するなど観光地域づくりにおいて多数の実績があります。

【道の駅「もてぎ」】

茂木町は、里山や棚田に代表される豊かな自然に囲まれながら、国際的サーキット「ツインリンク」も擁するまち。「道の駅もてぎ」（所在地：栃木県芳賀郡茂木町）は、栃木県内第1号の道の駅として平成8年にオープンして以来、新たなチャレンジで発展し続ける道の駅界の“トップリーダー”的存在です。素材を厳選した人気の手作りアイスに茂木産の新鮮野菜、特産の「ゆず」や「えごま」を使ったオリジナル商品の数々は要チェックです。焼きたて「パウムクーヘン」に、昨年、第1回道-1グランプリでグランプリを受賞した話題の「ゆず塩ら〜めん」といつも話題に事欠かない駅です。



パウムクーヘンゆずの木

道の駅「もてぎ」と跡見学園女子大学との連携②



- 平成30年度 ①茂木町の1次産業の6次産業化を学ぶ（地産地消や地域ブランド化）
②茂木町オリジナル地域循環型地域創生を学ぶ
③茂木町の移住・定住の現状について学ぶ

●道の駅概要説明



学ぶ

①加工食品

＜現状＞
茂木産の食材を使用し、ドレッシングやジャムなどの加工食品を製造・販売している（地産地消）

＜学んだこと＞

茂木町で取れた食材を使用し、加工、商品化することにより、付加価値をつけて販売している。また、加工工場・販売店で雇用を生む仕組みは、循環型の地域ブランドの育成に繋がって好循環を生んでいる。



②美土里たい肥による経済循環

＜現状＞
住民が集めた落ち葉を道の駅で購入し、生ごみやおがくず等の廃棄物や地域の未使用資源を土に返していきながら独自のたい肥（美土里たい肥）を製造している。

＜学んだこと＞

美土里たい肥を製造・使用することで高品質な土地を生み出し、そこでよりおいしい野菜を作ることは他の野菜との差別化を図り、もてぎ野菜（美土里野菜）としてのブランド化に繋がっている。また、住民が集めた落ち葉を買い取る仕組みは、運動不足になりがちなお年寄りが自分のお小遣いで孫に何かプレゼントができるという喜びと運動不足解消を作り上げ、精神的面での安定、また医療費軽減に繋がっている。



●道の駅概要説明



体験

③くらしサポートセンター

＜現状＞
茂木町の移住定住の総合窓口として道の駅内で運営をしている。また、子育て支援として母親が働きやすい環境をセットで用意し、移住・定住しやすい環境を作っている。

＜学んだこと＞

移住・定住の促進する施設があり、資源を無駄にさせない経済循環ということで不要になった衣料品を一括で集め、リサイクル衣料品として町でシェアする仕組みは、とことん資源を無駄にしない経済的な循環型のまちづくりに繋がっている。



道の駅「いちごの里よしみ」と立教大学との連携①



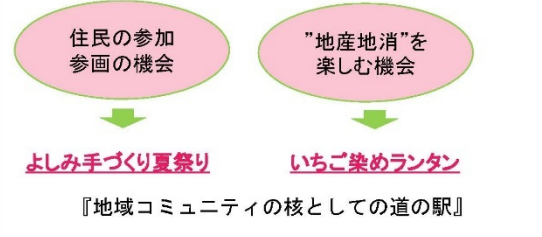
道の駅「いちごの里よしみ」と立教大学(観光学部)の学生が連携して、特産品「吉見いちご」を使用したランタン製作及びキャンドル製作などを盛り込んだ「第3回ランタンフェスタ」を企画・立案します。

吉見町の地域資源調査

町の魅力を追求するため、道の駅や町の地域資源調査を実施します。



連携コンセプト



【立教大学】

立教大学観光学部(所在地:新座市)は、「道の駅」と連携し、学生の実践的学びとして様々なプログラムを実施しています。
道の駅「いちごの里よしみ」を舞台とした「連携企画型」として、東教授のゼミナールに所属している学生が、コンセプトの提案や商品企画、イベント企画等、様々な課題に取り組んでいます。

【吉見町】

- 吉見いちご**
 合併直後の昭和30年代から養蚕に代わって栽培が始まった吉見のいちご。荒川と市野川に挟まれた肥沃な大地はとびきりおいしいいちごの生育に最適で、今や県内一の生産量を誇る産地です。
- 吉見あぶら味噌**
 吉見町認定のB級グルメ「あぶら味噌」は、昔から農家で食べられていた郷土料理。栄養価も高く疲労回復に効果的です。
 町内飲食店では、あぶら味噌ハーマニーを展開中。立教大生の発案をもとに「あぶら味噌焼うどん」もメニューに登場。立教大学(新座)の学園祭「Ivy Festa」では、毎年学生たちが「あぶら味噌焼うどん」の模擬店を開いています。
- 花便り(桜・菜の花／紅葉)**
 四季折々の花が楽しめるのも魅力です。特に、桜堤公園の桜のトンネルと菜の花のコントラスト、晩秋を彩る八丁湖の紅葉と紅葉をライトアップするヒーリングナイトは、吉見町自慢の景色です。



【道の駅「いちごの里よしみ」】

埼玉県内第1位の生産量を誇る「吉見いちご」の直売やいちごのお土産が買える、『いちごづくし』の道の駅。
地元野菜が並ぶ農産物直売所、B級グルメが味わえる食堂、いちごをモチーフにした遊具もある広場など、年間を通して多くの来場者で賑わいます。



道の駅「いちごの里よしみ」と立教大学との連携②



平成30年度 取組み内容：地域イベントの企画

イベントの企画

イベント当日に、より多くの吉見町の子供たちに来場してもらい、最後の点灯式まで残ってもらうために、町内の「放課後子ども教室」を訪問し一緒にキャンドルづくりを行いました。
(平成30年7月2, 6日)



大学構内で和紙を本物のいちごを使って染めました。
(平成30年7月23日)



「第3回 ランタンフェスタ」を開催して、水かけ祭りや流しうどん、ランタン・キャンドル製作会などを催しました。
(平成30年8月18日)



●水かけ祭り



●流しうどん



●ランタン・キャンドル製作



今後の方向性

取り組んだイベントの反省・改善点や、今後の方向性についてとりまとめました。



「道の駅『いちごの里よしみ』」の魅力、吉見町の魅力を内外にわたって発信していくためにフリーペーパーを作成しました。記念すべき第1号は「第3回 ランタンフェスタ」の特集を行い、「道の駅」のグルメ紹介も行いました。今後も定期的に発行していく予定です。



よしみ道の駅＝地域の誇りのショールームへ！

道の駅「果樹公園あしがくぼ」と淑徳大学との連携①



横瀬町の道の駅「果樹公園あしがくぼ」と淑徳大学(経営学部観光経営学科)の学生が連携して、横瀬町の「道」と「道の駅」の特徴、人の流れ、そして今後の観光客の誘導の方法や、「道」に関して改善すべき「表示」「内容」について提案しました。

アンケート調査で分かった
果樹公園あしがくぼ道の駅の地理的特徴



- 観光客の貴重なトイレ休憩所。
- 鉄道を使う登山者・ハイカーにとって、食料補給・帰宅前の休憩所、秩父土産物の購入場所。
- バイク・ツーリストの集合地・休憩所。
- 近くにはハイキングコースが多い。
- バーベキュー広場、川遊びの場所、染焼き・陶芸教室、蕎麦打ち教室などの体験が楽しめる。
- 道の駅からの果樹公園や川の景色が良い。
- 売り場は小さいが、地元の農作物は常に補給されており、営業時間中に完全に売り切れることは少ないようだ。
- 道の駅周辺でイベントを開く努力をしており、知名度を上げる努力をしている。

現状把握と課題



- 「一見さん」「初めての観光客」「登山者」のためには芦ヶ久保駅への案内標識が山にもっと欲しい。
- 「フコーさん案内所」のロケーションは首をかき上げる。道の駅構内に作るか、芦ヶ久保駅前に作るべきではないか？車の利用者にもわかりにくく、また鉄道の利用者には使えない場所にある。
- 「フコーさん」は、ゆるキャラのネームだろうが、外部からの観光客には訴求力がない。
- 道の駅に通じる登山道には、見晴らしの良いコースもあるが、中には落葉が堆積、木の階段が崩れ、標識が倒れている道もある。
- 下山した後に道の駅が閉店後でも自販機・トイレ・ベンチ等が使えるので、下山後のハイカーにとって利用価値が高い。

今後の改善提案



- 案内標識を見直して、山道、駅前に見やすく分かりやすいものを設置すべきである。
- 横瀬町は、秩父観音霊場(札所)34ヶ所のうち、5番～10番を有しており、札所巡礼者が多く訪れる。札所10番大慈寺はアニメ「心が叫びたがっているんだ」のロケ地で、若者がこの寺とその周辺を散策する現象が今でも続いている。
- 秩父巡礼路は魅力ある観光スポットで、札所寺院境内に留まらず、そこへ辿り着くまでの巡礼路そのものの魅力(景観・環境)を再認識すべきである。
- 今後は歴史的景観を「修景」していく考えを取り入れて、より魅力ある横瀬を作り上げることにより、道の駅「果樹公園あしがくぼ」の集客に繋がるものと考ええる。

【淑徳大学】

淑徳大学(経営学部所在地:埼玉県入間郡三芳町)は、社会福祉の増進と教育による人間開発・社会開発に貢献する人材の育成を目的とした大学で、2015年に創立50周年を迎えました。

経営学部は体験型・実践型学習を充実させていることが特徴です。講義での知識の獲得だけでなく、企業・自治体の協力を得て、学んだ知識や論理を確認・定着・発展させる取り組みを積極的に実施しています。このような取り組みにより、学生は広い視野を持ち、分析・解決する力を身につけます。

【道の駅「果樹公園あしがくぼ」】

当道の駅は、秩父の山々の深い緑、横瀬川の清流、澄んだ空気と四季折々の花と果樹といった豊かな自然に囲まれています。駅内施設には、農産物直売所、食堂、体験交流施設などがあり、屋外には四季折々の花を楽しめる交流広場があります。

施設のすぐ脇を流れる横瀬川の河原も散策でき、水に親しみ、ゆっくり体を休めるなど、ドライブ途中のリフレッシュには最適です。花、緑、風、水といった自然のすばらしさを体験できる道の駅です。

道の駅「果樹公園あしがくぼ」と淑徳大学との連携②



平成30年度 事業実施内容

果樹公園あしがくぼ道の駅 利用者アンケート調査



道の駅利用者聞き取り調査の準備



道の駅利用者聞き取り調査中



聞き取り調査個票を集計する

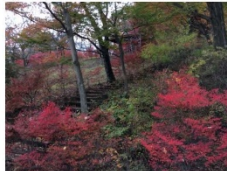
道の駅への導線を考える



六番峠道の壊れた木製の階段



荒れた山道の部分



紅葉が美しかった山の花道公園



9月の寺坂棚田、曼珠沙華が楽しい

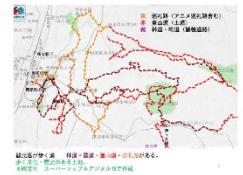


登壇の行き届いた丸山からの下山道



野仏が多い秩父巡礼路

事業の概観



横瀬町の歩く道を地図上にプロットする。



登山道の調査をする



あしがくぼ水柱祭り見学

道の駅「おがわまち」と城西大学との連携①



道の駅「おがわまち」と城西大学（現代政策学部庭田ゼミナール）の学生が連携して、道の駅を拠点とした町の新たな魅力の創出による観光振興を目指し、地域資源を活用した小川町ブランド商品の開発と、映像作品を通じた地域プロモーションを企画・立案します。

①小川町の実地調査

- ・小川町の地域資源調査
- ・町民・町役場と学生のディスカッション
- ・観光ボランティア活動

学生が道の駅や行政、町民・観光客との交流を通して、小川町・道の駅の現状を把握し、町の魅力を発見します。

②小川町ブランド商品の開発

学生と町の生産者が協力して、和紙原料の副産物と地元産有機野菜を採り入れ健康効果を内包した食品を開発し、SNS等を活用したPRを行います。

学生と町の実産者のコラボレーション

③小川町プロモーション動画の制作

学生が町民との交流を通して発見した魅力ある人や風景、行事を題材に、若者目線の地域ドラマ作品を制作し、国内外に広く発信します。

学生と町民のコラボレーション

小川町の新たな魅力を創出し、観光振興を目指します。

【城西大学】城西大学(所在地:埼玉県坂戸市および東京都千代田区)は、大蔵大臣や通産大臣を歴任した水田三喜男によって「学問による人間形成」を理念に1965年に建学されました。現代政策学部(所在地:坂戸市)は、政策学研究とキャリア教育により、問題解決能力を備えた人材の育成を目指しています。道の駅「おがわまち」との連携プロジェクトに参加する庭田ゼミナールは、「地域活性化政策～まちづくり/観光・交通の研究と実践」をテーマに、理論と実行力を兼ね備えた地域の担い手を育てるため、アクティブラーニングを用いた問題解決型授業を行っています。

【道の駅「おがわまち」】平成5年4月に埼玉県2番目として登録された道の駅。武蔵の小京都と称される小川盆地のやや東側にあり、周囲に山々を抱え、豊かな瀬川の流れを望み、手漉き和紙工房が多く集中する、まさに小川町の自然歴史文化の中心に位置します。道の駅内の「埼玉伝統工芸会館」はその主要施設で、県内の伝統的手工芸品の20産地30品目を一堂に会した展示施設です。特に、ユネスコに登録された技術である手漉き和紙の実演体験に多くのお客様が訪れています。また、地元の有機野菜等の直売所も設置され、地粉を使ったうどんやそばなどが食べられるレストランもあります。

【埼玉県 小川町】 ユネスコ「細川紙」の和紙のふるさと

1300年も昔からこの地で和紙が漉かれる。その内の「細川紙」の手漉き和紙の技術が、平成26年ユネスコ無形文化遺産に登録。

豊かな自然と共存する有機農業
本来の生き物同士の共存・共生を尊重することで、化学肥料や農薬を使わない有機農業。いち早くそれを実践し、いまや世界中から持続可能な有機農業の研修に訪れる。

和紙をふんだんに使った七夕まつり
昭和24年から戦後の和紙の復興を願って始まった小川町七夕まつり。艶やかな竹飾りが駅前通りを彩る。夜には花火大会も催され、小川町の夏の風物詩になっている。



道の駅「おがわまち」と城西大学との連携②



平成30年度 取組み内容①：小川町ブランド商品の開発～楮の葉を利用した食品開発

商品開発



和紙の原料「楮（こうぞ）」の刈り取り 試作（試食～生地の改良～パッケージ案）

和紙の原料になる皮以外は廃棄されてしまう楮。その廃棄されてしまう葉を利用して、道の駅で販売する食品を考案しました。

商品コンセプトは、道の駅に集うサイクリストやライダーが手軽に栄養を補給でき、テイクアウト可能な地場産加工食品。

城西大学薬学部医療栄養学科の協力により、楮の葉にはカルシウムと食物繊維が豊富であることがわかりました。

そこで、粉末にした楮の葉を練りこんだ皮で小川町産有機野菜を包んだトルティーヤを提案しました。

平成30年度 取組み内容②：観光ボランティア活動

外国人修学旅行生の対応



道の駅でお出迎え



一緒に和紙を使った作品作り

七夕まつり



七夕飾りの準備

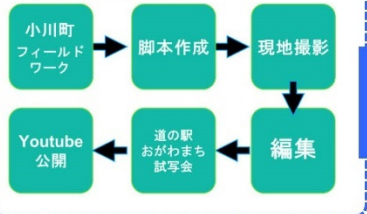


祭会場の手伝い

平成30年度 取組み内容③：小川町プロモーション動画の制作

ショートムービー製作

動画製作の過程



学生たちが町の方々と交流しながら地域資源を発掘し、小川町の魅力を発信する地域プロモーション動画「小川町 恋の予感」を企画立案し、制作・公開しています。



平成30年度 取組み内容④：小川和紙製造体験

小川和紙製造体験

小川といえば「和紙」といわれるほど有名な小川の和紙。なかでも楮(こうぞ)だけを使用した「細川紙」の製造技術は、国から「重要無形文化財」の指定を受けています。



道の駅「鴨川オーシャンパーク」と城西国際大学との連携①



道の駅「鴨川オーシャンパーク」と城西国際大学（観光学部）の学生が連携し、道の駅でゆったりとした時間を過ごすための『空間演出』、地域への回遊性を高める『地域観光促進』に向けたプロジェクトに取り組みます。

①道の駅の付加価値を高める

- 鴨川オーシャンパークならではのアクティビティや癒しの空間を提供することで、施設の付加価値を高めることを検討・実施



癒しのリゾート空間を演出することを目的に、新たなイベントを創出

②情報発信機能の強化

- 道の駅「鴨川オーシャンパーク」から地域への回遊性を高め、地域観光促進を目指した情報発信の提案



デジタル情報をQRコードに変換しての発信を提案

【城西国際大学（所在地：千葉県鴨川市）】

城西国際大学は、ウェルネスツーリズム[※]を目指した実践的な観光学を学びます。特に親身な教育、地元鴨川・南房総でのフィールド地域プロジェクトを通しての実務に強い教育が特色です。

※ウェルネスツーリズムとは、「観光者と住民との協働で生み出される人と地球にやさしい観光」のことです。

ウェルネスツーリズム



【道の駅「鴨川オーシャンパーク」】

鴨川オーシャンパークは、文字通り豊かな自然や温暖な気候に育まれた鴨川の魅力である「海」と「花」を基本テーマに、訪れる人々に憩いとやすらぎのひとときをつくる観光拠点づくりを目指すとともに、地場産業や文化、芸術分野との連携を図ることで、地域の総合的な活性化と交流の場を目的とした海浜型リゾートパークです。



道の駅「鴨川オーシャンパーク」と城西国際大学との連携②



平成30年度 取組み内容：道の駅の付加価値を高める

取組み概要

道の駅の付加価値を高めて目的地を目指す取組み

【①クルージング・イベントの実施】

鴨川オーシャンパーク前に位置する太夫崎港にて、クルージングイベントを実施することで、鴨川市における新しい海のレジャーを提案し、より観光地としての魅力向上を図る。あわせて、鴨川オーシャンパークならではのイベント創出によって、当該道の駅の付加価値向上を目指す。

【②グランピング体験の実施】

鴨川オーシャンパークの休憩機能を強化するために、グランピング施設を活用した癒し空間の演出を企画した。グランピング体験の目的は、南房総のリゾート地にある道の駅であるからこそ、より休憩機能を強化し、癒しやリゾートの雰囲気を提供することで滞在時間の延長につながるのではないかと仮説の検証でもある。グランピング施設は、鴨川市観光プラットフォーム株式会社所有のものをレンタルした。

新たなイベントを創出することで、鴨川オーシャンパークの付加価値を高め、道の駅利用者の満足度を向上させることが出来ないと議論を重ねてきました。

昨年度に引き続き、クルージングイベントを実施するとともに、「癒しの空間」を演出するためにグランピング施設を運用しました。大型テントは出入り自由の休憩スペースとし、小型テントは体験スペースとして「宝貝ストラップ作り」を実施しました。テント周辺にはプロジェクトに関するポスターを設置し、お客様の誘導も兼ねてキッチンカーで飲料販売をおこないました。

- 「癒しの空間」を演出したグランピングコーナー。癒し空間の演出に、利用者の満足度は良好！
⇒ プロジェクト成功！！



●クルージングイベントの様子





平成30年度 取組み内容：情報発信機能の強化

企 画

地域への回遊性を高める情報発信

【①ハッピートレイ & kamo♡cardによる情報発信】

新たな情報発信方法の実践、そしてデジタル情報の発信を目的に、ソフトクリームの受け皿となる「ハッピートレイ」と名刺サイズのカード「kamo♡card」を企画・導入した。いずれも学生運営のInstagramアカウント情報とオリジナルのGoogle mapsへのアクセスコードを埋め込んだQRコードを配置した。なお、カードのデザインは鴨川市所有の観光資源イラストを採用することで、記念カードとして「持ち帰ってもらう」ことも意図している。

【②Instagramの開設と運営】

鴨川市内への回遊性向上を目的に、学生がSNS (Instagram) を活用して様々な観光資源情報の発信をおこなった。主ターゲットを若者層としたため、Instagramでアカウント名「_kamostagram」を取得し、週2回の情報発信をおこなった。

地域独自の魅力やその季節の旬の魅力等、地域の観光情報について、「必ず手に取ることができる広告媒体」という視点で情報発信を実践しました。そして、スマートフォンなどの通信端末の観光活用を実証することも念頭に、デジタルによる観光情報の発信を企画しました。「手に取ってもらう」ことを主眼にしたため、デジタルデータをQRコードとして埋め込み、物理的に配布できるように工夫しました。なお、鴨川市の観光PRともなるように、鴨川市が有する観光資源イラストを活用させて頂きました。



道の駅「めぐみ白山」と金沢星稜大学との連携①



金沢星稜大学の学生が、道の駅「めぐみ白山」で白山市の地域活性化に向けた調査研究を実施。なお、本取り組みは平成30年度より始動した取り組みである。



【白山市の概要・課題】

白山市は石川県の南部に位置し、日本海から日本三名山の一つでもある白山まで、起伏に富み、市内全域で白山手取川ジオパークをなす。観光資源が豊富な白山ろく地域（白山市域の山間地である河内、吉野谷、鳥越、尾口、白峰の5地域）では人口流出が深刻で、老年人口の占める割合は全体の約40%であり、集落の維持・存続が危ぶまれ、早急な地域活性化が不可欠である。（平成28年度白山市統計より）

地域活性化のためには定住人口増加はもちろんのこと、交流人口（観光客等）の拡大が重要である。地域の観光・情報発信の拠点とし、平成30年4月にグランドオープンした道の駅「めぐみ白山」をフィールドに、白山市の地域活性化に向けた調査・研究を実施。

- 【取組内容】
- ①道の駅「めぐみ白山」交通量調査
 - ②道の駅「めぐみ白山」アンケート調査
 - ③道の駅「めぐみ白山」SDGs商品調査

金沢星稜大学

金沢星稜大学は、昭和42年に金沢経済大学として設立し、平成14年に金沢星稜大学に名称変更されました。建学の精神「誠実にして社会に役立つ人間の育成」の実現を目的に、北陸の産業・文化の発展に寄与するとともに、広く国家社会に貢献することを使命としています。



道の駅「めぐみ白山」

平成30年4月にオープンした直轄一体型の道の駅である。道路休憩施設には、中庭を望める明るいトイレや子育て世代にやさしい授乳スペースを設置。地域振興施設には、白山の食材を使ったレストランと地場産品の直売所が併設。また、観光情報コーナーには、大型パノラマスクリーン(2.7m×11.4m)や北陸新幹線実寸大パネル展示等で白山の魅力ダイナミックに発信している。



道の駅「めぐみ白山」と金沢星稜大学との連携②

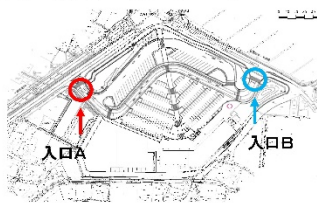


平成30年度 取組内容：道の駅「めぐみ白山」にて交通量調査

道の駅「めぐみ白山」にある2箇所の入口で交通量調査を実施。利用者の傾向や特徴を把握し、案内方法などの改善方法を提案する。

現地調査

平成30年8月30日(木)13:30～16:30及び31日(金)9:30～11:30に道の駅に入る車両を車種とナンバープレートの地名に分類して調査をした。



入口A



入口B

調査結果

- ・全車両の合計は480台であった。
- ・入口A(国道8号)は40台で、入口B(県道松本木津線)は440台であった。
- ・車種別の集計はバイク1台、バス13台、トラック34台で残りは普通車で432台であった。
- ・ナンバープレートによる地名別の集計は県内が370台、県外が110台であった。
- ・時間帯別交通量は16時台が多かった。
- ・白山眺望(ビュースポット)が整備されているが、利用者がいなかった。



ビュースポット利用者なし

考察・提案



- ・全体の9割が県道松本木津線側の入口Bを利用、残る1割が国道8号側の入口Aから出入りしている。
- ・国道8号を通行する車両が多いが看板や道の駅の建物が見えづらいためドライバーの認識が遅れる。
- ・1km前、500m前あたりに道の駅を示す標識を設置する。敷地内の看板を目立つ配色にする。
- ・白山市民が夕飯の買い出しに来る夕方時は、お土産より食品の販売を強化する。
- ・施設出入口にビュースポットをアピールする表示物や新たな展望台を設置する。

道の駅「めぐみ白山」と金沢星稜大学との連携③



平成30年度 取組み内容：道の駅「めぐみ白山」にてアンケート調査

道の駅「めぐみ白山」の利用者に、来訪の目的や道の駅に関する意見等をアンケート調査した。調査結果を分析することで、問題点や改善点などを提案する。



現地調査	調査結果	考察・提案
<p>平成30年8月30日(木)13:30～16:30及び31日(金)9:30～11:30に施設出入口付近で利用者に対してアンケート用紙に記入して頂く形式で調査を実施した。また、具体的な自由意見についてはヒアリングをした。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・60歳代以上が4割以上で20歳代以下が1割ほどであった。 ・来訪目的は買い物35%、食事32%、休憩・トイレ24%、他9%であった。 ・印象に残った施設は主に、地場産品売場51%、レストラン24%、トイレ12%であった。 【プラス意見】 ・新しくとても綺麗な施設なのでこの状態を維持してほしい ・多目的トイレや授乳室がよい ・地元産品が多く、冷凍・冷蔵商品がよい ・イベントなど魅力のある道の駅がよい ・パンフレット・写真が多くてよい 【マイナス意見】 ・パノラマスクリーンの内容がわからない ・パネル型の地図がほしい ・地場産品売り場で試食がほしい ・ジオパークの認知度が低い 	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道模型の展示やジオパークの認知度を高め、家族集客を増やす。 ・継続的にイベントを実施する。 ・試食コーナーを設置する。 ・売れ筋商品に野菜がないため、新商品の開発(例:グリーンスムージー) ・多言語表記に誤字等があるため、市の外国職員を利用し修正する。 ・屋外のゴミ箱が点字ブロック側にあるため、設置位置を再検討する。 ・芝生や7月に完成した遊具の利用が少ない。利用方法の看板を建てる。 ・集客効果のある宣伝が少ない。例えば、SNSやフリーペーパーに掲載し道の駅をアピールする。 

道の駅「めぐみ白山」と金沢星稜大学との連携④



平成30年度 取組み内容：道の駅「めぐみ白山」にてSDGs商品調査

平成30年6月15日、白山市はSDGs未来都市に選定された。道の駅「めぐみ白山」にて陳列されている商品を観察し、持続可能な開発目標(SDGs)との関係を考察する。

現地調査	調査結果	考察・提案
<p>平成30年8月30日(木)13:30～16:30及び31日(金)9:30～11:30に地場産品の直売マーケットで陳列されている商品を観察し、SDGsの17の目標と関連付けを行う。</p>  <p>商品調査状況</p>	<p>【商品名:17の目標の番号】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太鼓楽:3、8、9、11 ・金沢湯涌サイダー:8、9、11、12 ・丸谷焼USBメモリー:5、8、9、12、17 ・風のわさび粕漬け:3、11、14、15 ・白山ショコラ:8、12、14、15 ・かまし饅頭:3、8、11 ・剣崎なんばのかりんとう:3、8 ・白山ライスクラッカー:3、8、14 ・ティラミス白山きなこ:3、8 ・能登のしおゼリー:8、14、15 ・ほうらい寿司:3、8 ・天狗舞純米白山菊酒:6、14、15 	<p>平成30年6月15日、国連が定める「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に向けた優れた取組を提案した自治体として、白山市が「SDGs未来都市」に選定された。</p> <p>白山市では、白山ユネスコパーク及び白山手取川ジオパークの理念に基づき、山間部を拠点とし、産学官民連携のもと、環境に調和した持続可能な経済発展や豊かな生活を実現し、その成果を市全体に還元するサイクルの確立を目指す。</p> <p>道の駅「めぐみ白山」にて陳列されている商品を観察した結果、主要商品の中で12個の商品でSDGsの17の目標と関連付けが確認できた。</p> <p>今後もSDGsの関連付けについて白山市と連携し、道の駅「めぐみ白山」が地方創生の拠点となるよう、ここでない手に入らない価値を創出していきたい。</p>

道の駅「あおき」と長野大学との連携①



道の駅「あおき」と長野大学（環境ツーリズム学部）の学生が連携し、道の駅を拠点とした取り組みで、村の魅力を引き出し、観光振興による地域活性化を目指します。

取組①

学生による青木村の現地調査

- ・青木村の地域資源調査
 - ・道の駅「あおき」の利用状況調査
 - ・村民への聞き取り調査
- 学生が村内の調査や村民との交流を通して、青木村・道の駅の現状を把握し、村の魅力を調査します。

取組②

特産品を活かした新商品の開発

青木村限定栽培の蕎麦「タチアカネ」を活用したオリジナルメニューにより、青木村の新たな魅力を創出し、道の駅での商品化を目指します。

■特産品



取組③

村の魅力を活かした観光PR

村の良さである歴史的建造物や古くからある温泉などを巡る観光ルートの提案や、案内マップの作成により、道の駅から村の魅力を発信します。

■歴史的建造物や古くからある温泉



【長野大学】

長野大学（所在地：長野県上田市）は、知の共同体の構築を理念に1966年に開学されました。環境ツーリズム学部は、社会の幅広い分野で活躍する「教養ある職業人」の育成を目指しています。
道の駅「あおき」との連携プロジェクトに参加する市川ゼミナールは、「地域活性化への寄与」をテーマに、地域の担い手を育成するための授業を行っています。

【道の駅「あおき」】

平成17年に登録された道の駅。
農産物直売所では、村の特産品である「見返り漬け」や、秋には松茸をはじめとするキノコ類などを販売しています。
道の駅内のレストラン「味処こまゆみ」では、青木村限定栽培タチアカネの手打ちそばを食べることができます。

道の駅「あおき」と長野大学との連携②



平成30年度 取組み内容：キャンプ場でのSNS発信
タチアカネそばを使ったメニュー作り
ウォーキングマップの作成

SNS発信



タチアカネの子チミ



ウォーキングマップ



道の駅「中条」と松本大学との連携（4年目）①



道の駅「中条」と松本大学の学生が連携し、88（やまんば）プロジェクトファームでの6次産業化の推進、お祭りへの参加など、長野市中条地域の活性化に向けた取組みを実施します。2018年度の目玉は学生が考案した道の駅「中条」のイメージキャラクター「ナカジョニー」です。



①「子育ての神：山姥（やまんば）伝説の里」中条のスタンプラリーと「ナカジョニー」

アルプスを望み、虫倉山に抱かれた自然豊かな「子育ての神：山姥（やまんば）伝説の里」中条を舞台に、昨年、好評を博したスタンプラリー(2018/10/21)を実施しました。学生が考案したイメージキャラクター「ナカジョニー」も加わり、中条のさらなるイメージアップを狙いました。

② 長野市中条地域一大イベント「むしくらまつり」の連携・協力と笹クレープの商品開発・販売

地域住民が作りあげる「むしくらまつり」(2018/11/3)に参加し、特産物の西山大豆を使った6次産業化の推進や地域の情報を発信していきます。2018年度は「笹クレープ」の商品開発・販売とナカジョニーによるAR（拡張現実）動画を制作しました。



【松本大学】

松本大学総合経営学部では地域社会での実践的な学びを重視し、「地域の学びを通して社会の最前線で活躍する人になる」をキーワードに理論と実践の融合を目指した教育活動を推進。総合経営学科清水ゼミの学生が中心となり「88（やまんば）プロジェクト」を提案し、2015年度より約20名で活動開始。2018年度は総合経営学科学生27名と増尾学部長、室谷学科長、清水先生、成先生、小林先生、矢崎先生、計33名が参画。

【道の駅「中条」】

長野市西部の山間部、主要地方道長野大町線沿道に立地する道の駅です。



中条の山姥「やまんば」



西山大豆 豆乳ドーナツ



信州百名山「虫倉山」



【道の駅中条 全景】

道の駅「中条」と松本大学との連携②



平成30年度 取組み内容①：「子育ての神：山姥（やまんば）伝説の里」中条のスタンプラリーと「ナカジョニー」

企画→実施



●松本大学でキックオフ・ミーティング(5/21)を実施。先輩が考案したスタンプラリーを引き継ぎ、今年度新たに中条のイメージキャラクター「ナカジョニー」と「笹クレープ」の提案を行いました。



学生が中条地域について現地調査(6/18)を行い、中条の魅力ある資源をもとに、「自然とのふれあい」、「中条の知識」、「親子間、友人間での話題づくり」の3つの目的を意識し、昨年に引き続き、スタンプラリーを企画・実施(10/21)しました。

●中条のイメージキャラクター「ナカジョニー」がスタンプラリーで初登場しました。



●スタンプラリーの後は落ち葉アートや草笛、草相撲、箱の中身アゲゲームなどの自然の遊びを体験してもらいました。

●ナカジョニーも参加し、子どもたちと交流しました。



平成30年度 取組み内容②：長野市中条地域一大イベント「むしくらまつり」の連携・協力と笹クレープの商品開発・販売

企画→実施

- 8.8プロジェクトファームでの6次産業化の推進、西山大豆の種まき・収穫を体験。

種まき(6/18)

収穫(11/3)



- 笹クレープの原案・商品開発・ポスター制作。

中条地域最大のお祭り「むしくらまつり」(2018/11/3)で 地域を盛り上げる企画を提案し、実施しました。



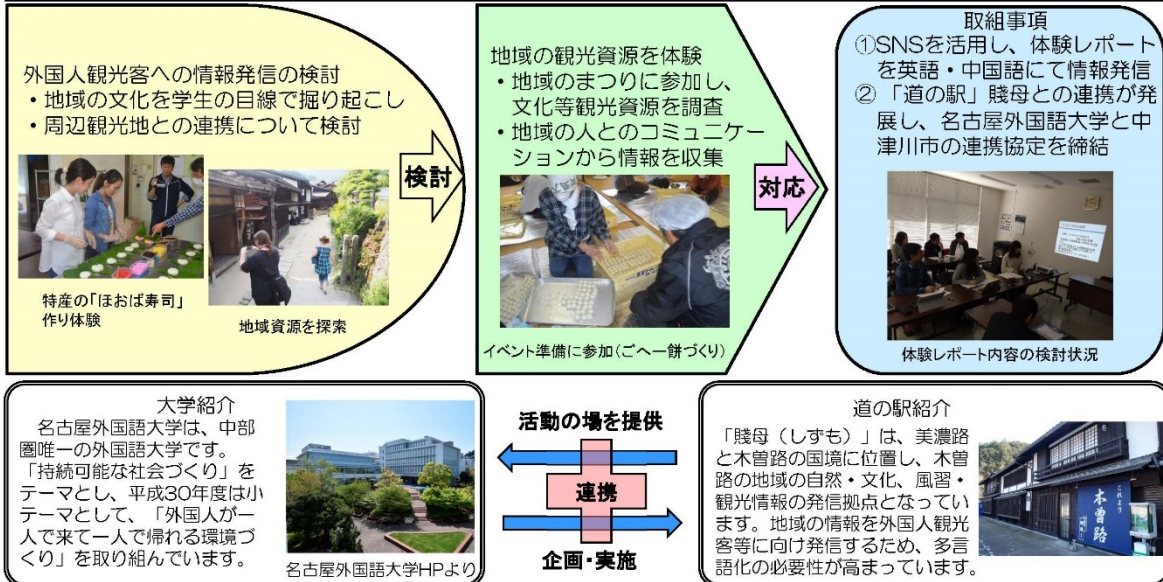
- 学生が考案した「笹クレープ」を100個限定100円で販売し、あっという間に完売。さらに笹おやき700個完売、ニラせんべいを321枚販売しました。
- オカシヨニーによるAR(拡張現実)動画を制作。むしくらまつりにも登場し、〇×クイズを実施。また落ち葉アートや笹舟づくりなどの「自然の遊び体験」で、多くのお子さんやご家族に楽しんでいただきました。



道の駅「賤母」と名古屋外国語大学との連携①



名古屋外国語大学が道の駅「賤母（しずも）」と連携し、平成27年度から、地域の自然と文化、風習・観光情報の発信に取り組んでいます。外国人観光客・世界へ向けたダイレクトな発信の取り組みとして、大学と連携し多言語による地域観光情報のポータルサイトを構築しました。



道の駅「賤母」と名古屋外国語大学との連携②



平成30年度 取組み内容：昨年度までの取り組みへの検証、インバウンド対応

①道の駅との打ち合わせの実施

■実施内容

- 1 実施時期 平成30年7月、11月
- 2 場所 道の駅賤母
- 3 内容 昨年度までのごへー祭りへの参加の取り組みの検証(平成30年度は祭りへの参加はなし)や、現在道の駅が行っている多言語発信等、インバウンド対応の現状を視察した。

これまでの取り組みの様子
(地域の皆さんとのごへー餅づくり)



体験レポートを英語・中国語にSNSで紹介イメージ(H28実績)

②道の駅周辺の外国人観光客へのアンケート調査等実施

■宿泊研修

- 1 実施時期 平成30年8月、平成31年2月
- 2 場所 中津川市馬籠、中津川市本町
- 3 内容 外国人観光客へのアンケート調査等



■宿泊研修の様子
道の駅賤母の周辺にある馬籠宿で、外国人観光客のニーズを知るためのアンケート調査を実施

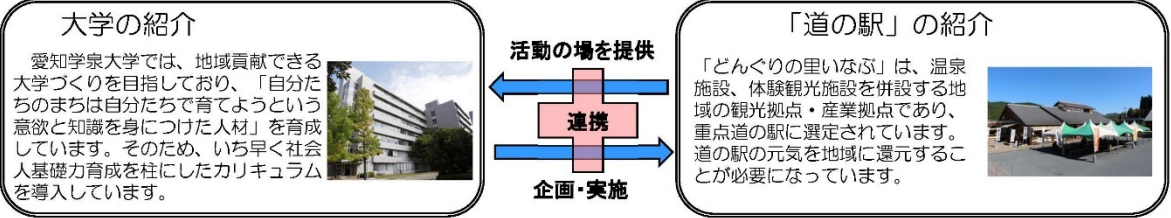
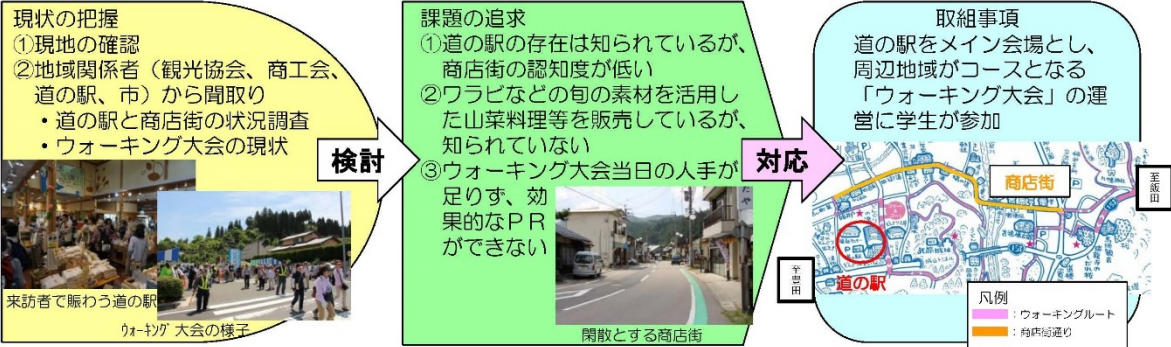


■日本文化体験
山口地区にある公民館で留学生に朴葉寿司づくりなどを体験してもらった等、日本文化に触れる場所を提供

道の駅「どんぐりの里いなぶ」と愛知学泉大学との連携①



道の駅「どんぐりの里いなぶ」は国道153号にあり、愛知県・岐阜県・長野県の各県境に近接することもあり、年間約60万人の来訪がある。一方、旧宿場町であった地区の商店街は空き店舗が増え活力の低下が否めない。商店街の活性化のため、道の駅と連携した取組を大学が実施した。



道の駅「どんぐりの里いなぶ」と愛知学泉大学との連携②



平成30年度 取組み内容：集客イベントのサポートによる地域の活性化

〇ウォーキング大会「歩かまい稲武」を活用した地域の活性化

■「歩かまい稲武」概要

- 1開催日 平成30年5月13日(日)
- 2場 所 道の駅「どんぐりの里いなぶ」を含む豊田市稲武地区中心部一帯
- 3参加者 約576人(豊田市街地・名古屋市からの参加者多数)
- 4内 容 参加者が7km、8kmのコースを歩き、自然環境と中山間地の雰囲気にふれる
- 5連携の趣旨 道の駅を拠点にした地域全体の活性化について、多数の集客があるイベントをきっかけにした事業を施行

①商店街で販売、公共交通利用のPRを実施

- ・地域の特産品である山菜天ぷらなどの販売
- ・マコから絹糸を引く製糸体験
- ・豊田市街地から「道の駅」に乗り入れている路線バスの利用PRに学生が参加



ウォーキング参加者に地域の魅力をPR

②商店で人気の特産料理をPRするPOPを作成

各商店の売りを明記した手作り看板を学生が作成



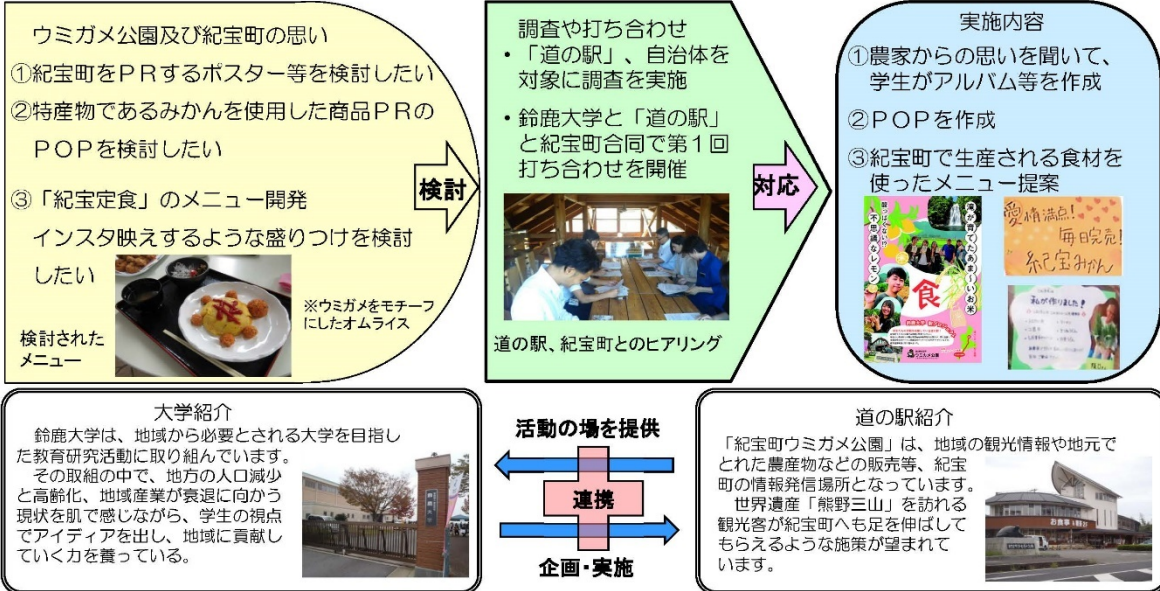
特産品であるワラビ、タラの芽、たけのこなど旬の素材を利用した天ぷらをユニークなイラスト、POPで紹介

商店街の名所をユニークにわかりやすく紹介

道の駅「紀宝町ウミガメ公園」と鈴鹿大学との連携①



世界遺産に登録された熊野三山へ多くの観光客が訪れる中、三重県側からの経由地である「道の駅」紀宝町ウミガメ公園では、地元紀宝町へより多くの観光客の招致を目指している。その施策について、「道の駅」と大学とが連携して、より紀宝町が目される情報発信を行う為の取り組みを平成30年度に実施。



道の駅「紀宝町ウミガメ公園」と鈴鹿大学との連携②



平成30年度 取組み内容：関係機関と観光客の招致に向けた情報発信

〇現地研修の開催

■概要

- 1開催日 平成30年10月10日、11日
- 2場 所 道の駅「紀宝町ウミガメ公園」
- 3参加者 約25人
- 4内 容 道の駅関係者、農作物の生産者から聞き取り、POP作成、レシピの開発



現地研修の様子

〇紀宝町のPRポスター、POPを作成

- ・農家からの思い（商品の特徴や伝えるべきストーリー）を学生が聞いて、学生の視点で商品やメニューの写真撮影を行い、PRポスターやPOPを作成。



〇紀宝町の特産品を使ったメニュー開発

- ・紀宝町で生産される食材を使ったメニュー提案（定食、ファストフード、スイーツ）



道の駅駅弁
亀ちゃん寿司

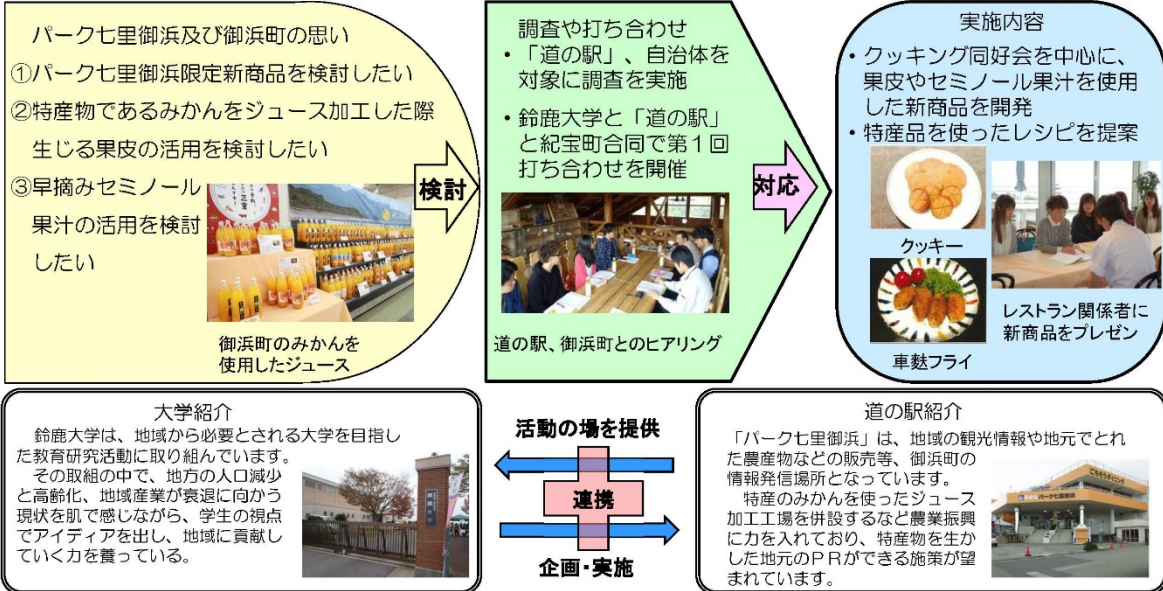


特産品であるマイヤーレモンを使用した車麩のフライ

道の駅「パーク七里御浜」と鈴鹿大学との連携①



世界遺産に登録された熊野三山へ多くの観光客が訪れる中、三重県側からの経由地である「道の駅」パーク七里御浜では、地元御浜町へより多くの観光客の招致を目指している。その施策について、「道の駅」と大学とが連携して、より御浜町が注目される情報発信を行う為の取り組みを平成30年度に実施。



道の駅「パーク七里御浜」と鈴鹿大学との連携②



平成30年度 取組み内容：関係機関と観光客の招致に向けた連携事業の実施

〇現地研修の開催

■概要

- 1開催日 平成30年10月10日、11日
- 2場 所 道の駅「パーク七里御浜」
- 3参加者 約25人
- 4内 容 道の駅関係者、農作物の生産者から聞き取り、POP作成、レシピの開発



現地研修の様子

〇紀宝町の特産品を使ったメニュー開発

- ・栄養教育実習において特産品を使ったレシピを提案、七里御浜レストラン関係者へプレゼンの実施
- ・クッキング同好会Tomatoが中心となり、果皮パウダーやペースト又はセミノール果汁を使った新商品の提案



御浜町特産のみかん
(御浜町パンフレットより)



御浜町特産の季節ごとのみかんを使ったジュース
(道の駅パーク七里御浜HPより)



みかんクッキー



車麩フライのマイヤーレモン果汁入り
特産品であるみかんジュースを使用したレシピの提案



七里御浜レストラン関係者へ
レシピのプレゼンを実施

道の駅「竜王かがみの里」と滋賀短期大学との連携①



H27より道の駅「竜王かがみの里」と滋賀短期大学が連携して、若者ならではの視点・感性及び専門分野を活かした新たな特産品の創出等、地域活性化に資する取組を進めています。

<連携内容の確認>

- ・道の駅「竜王かがみの里」からのニーズの確認
- ・現地調査により改善点を確認

反映

<企画・提案>

- ①特産品を活かしたオリジナル商品の開発
地元食材を活かしたパンや弁当及びレストランメニューの開発
- ②売場の環境改善
陳列方法、惣菜や特産品のPOPづくり、名物定食の説明PR作成 等
- ③情報提供（休憩）施設など、施設の有効活用
多様なニーズに応じた利用勝手のよい空間の創出、イベントの開催 等

発展

<期待する効果>

- ・地域活性化の担い手となる人材育成・確保 → 平成31年度、滋賀短期大学から「竜王かがみの里」へ1名就職予定
- ・新たな商品の開発による地域活性化
- ・商品開発による、学生のプロ意識向上

【滋賀短期大学】

1918（大正7）年の「松村裁縫速進教授所」創立以来の約100年の歴史ある伝統校で、建学の精神である「心技一如」に基づき、品性と能力を車の両輪のようにたとえ、人格教育と実学教育を融合させることによって、一人ひとりの学生の学ぶ力を引き出すことを基本方針としています。

【道の駅「竜王かがみの里」について】

集客力のある「竜王かがみの里」と農業生産力のあるアグリパークを連携させて竜王町の地方創生の拠点として、町のブランド力の向上・魅力の発信、6次産業化推進、畜産業・農業就業者支援などに取り組んでいる。

道の駅「竜王かがみの里」と滋賀短期大学との連携②



平成30年度 取組み内容：恒例のひなまつりイベント

ひなまつりに滋賀短期大学によるイベント

ビジネスコミュニケーション学科によるコンピューター占い&ベーカリー塾手作りケーキをプレゼント

滋賀短期大学の先生4名、生徒さん2名にお越しいただきました。例年行っているイベントですが、今年は生徒数の減少でビジネスコミュニケーション科のみの参加となりました。



平成30年度 取組み内容：パン工房「梨のタルト」

- 台風で落下した梨をタルトにする案をベーカリー塾の金丸先生よりご指導
- 作業の見直し
- 梨のコンポート制作方法

梨タルト 1ホール



梨タルト カット



喫茶「ベリーベリー」の二等品果樹を使った新商品開発

<連携内容の確認>

- 道の駅「アグリパーク竜王」内の喫茶「ベリーベリー」からのニーズの確認
- 竜王町内にて喫茶メニューに加工できる果樹の調査

<企画・提案>

反映

- 地元の食材でビューレ加工している二等品のメロンを使った新商品開発、イベントでの販売

発展

<期待する効果>

- メロン以外の二等品果樹、野菜を使用した新商品開発
- 「果樹の町 竜王町」として来客者へのPR

【滋賀短期大学】

1918（大正7）年の「松村裁縫速進教授所」創立以来の約100年の歴史ある伝統校で、建学の精神である「心技一如」に基づき、品性と能力を車の両輪のようにたとえ、人格教育と美学教育を融合させることによって、一人ひとりの学生の学び力を引き出すことを基本方針としています。

【道の駅アグリパーク竜王】

1996年（平成8年）に体験型農業公園として開園し、地元の山之上生産組合の栽培された農産物の流通・誘客を事業展開してきた。直売所だけでなく、果樹狩りの受付や田園資料館、動物ふれあい広場の運営等を行う。2015年（平成27年）4月に道の駅に登録され、2016年（平成28年）に重点道の駅に認定された。

平成30年度 取組み内容：二等品メロンを使用した新商品開発

竜王町にて収穫された二等品メロン（糖度が販売できる水準に達していないもの）をフレッシュで有効に活用するため、滋賀短期大学 金丸先生にご指導いただき、期間限定商品「まるごとメロンかき氷」の商品化に至る。

「まるごとメロンかき氷」：半分に切ったメロンをまるごと使用し、みぞれのかき氷とメロンソルベをトッピングした商品。



喫茶ベリーベリーにて商品化：「まるごとメロンかき氷」¥780/個
H30.7/21（土）22（日）28（土）29（日）4日間で計37個販売し、¥28,860の売上



平成29年12月に設立した「京丹波町道の駅連絡協議会」と大阪大学が連携して、若者ならではの視点
 ・感性を活かし、町内4つの駅の活性化と地域の発展に向けた取り組みを進めています。

<各駅の課題>

- 町内4つの道の駅「丹波マークス」「京丹波味夢の里」「瑞穂の里・さらびき」「和」それぞれの持つ課題の確認
- ・「丹波マークス」「和」・・・京都縦貫自動車道の全線開通により、自動車通行量が減少し、それに伴い入込客数が減少傾向にある
 - ・「瑞穂の里・さらびき」・・・平成29年に発生した台風などの豪雨災などにより国道173号で土砂崩れが発生通行止の措置により入込客数が減少傾向
 - ・「京丹波・味夢の里」・・・道路通行量、入込客数、運営ともに課題はないが、訪れる来場者への観光情報、施設情報等の効果的な情報発信と、来場者の町内観光施設等への周遊・送客が課題

反映

<企画・提案>

- ①食のまち「京丹波町」
丹波黒大豆・丹波くり・大納言小豆・丹波松茸・本しめじ など、全国的にも有名な「食材」が豊富
“意外”なところで「さば街道」との直接的な関係は薄いですが、京丹波町内では昔から「さば」料理が豊富
- ②魅力の活用
“意外”な「さば」料理を「さばメシ」と命名し、「京丹波町さばメシ街道」プロジェクトを立ち上げ
町内の飲食事業者と提携し、町内のオリジナリティあふれる「さばメシ」を食べ歩き
- ③メディアとSNSの活用
一般的な旅行雑誌はもとより、バイクや自転車などターゲットを絞った専門雑誌等への掲載
若者ならではのSNSを活用した情報発信

発展

<期待する効果>

- ・まちの新たな魅力による町内周遊客の増加
- ・3駅「丹波マークス」「瑞穂の里・さらびき」「和」への入込客数の増加
- ・地域経済の活性化

道の駅「吉野路大塔」と帝塚山大学との連携①



帝塚山大学食物栄養学科の学生と連携し、平成23年9月に発生した紀伊半島大水害に伴い閉鎖していた道の駅のレストランを、季節限定で再開。毎週日曜日に営業。お土産の開発を実施。



【平成30年度レストラン活動報告】

活動開始 H30.4.15(プレオープン)
H30.4.30(グランドオープン)
活動人数 帝塚山大学現代生活学部
食物栄養学科4年生 14人
活動期間 6ヶ月間(4~9月)
来客人数 約3,000人
卒業式 H30.11.21



「TEZUcafe(テヅカフェ)」を運営している帝塚山大学現代生活学部食物栄養学科の皆さん。

【お土産開発の活動成果】

- ・先輩方が築いてきたことを継承しながら新たな商品開発に挑んだ。
- ・活動エリアを他県まで拡大し、そして新たに行政・企業を巻き込んだ。
- ・到達目標を明確にし、計画通りに商品化を進めた。
- ・商品開発のコンセプトを栄養的側面から健康と美容に設定した。
- ・五條市の歴史を背景とした新しい視点から取り組んだ。
- ・それぞれの立場を理解し、協力し合ってゼミ活動に取り組んだ。
- ・行政や企業との連携を行うために、報告・連絡・相談を心掛けた。

【連携活動内容】

- 学生が、食材の仕入れや調理、接客にいたるまですべて運営。
- 地場産の材料を用いて開発した「帝塚山大学オリジナルメニュー」等を利用者に提供。
- 知名度向上のため、SNSでの情報発信やイベントへの参加やラジオ番組等へも出演。
- 教育委員会と連携した小学生への食育活動
- 地域の特産品や歴史文化を活かしたお土産品の開発

【帝塚山大学 現代生活学部 食物栄養学科】

食物栄養学科では、医療や福祉、行政、学校などの幅広い分野で戦力として活躍できる臨床に強い管理栄養士を育成するために、基礎から知識を深め、多くの実習経験を通じて“実践力”を身につける実学教育を実施しています。
地域や企業と連携したさまざまなプロジェクトに参加することで、食育指導や食品開発、給食事業分野に生かせる企画・提案力、マネジメント力、コミュニケーション能力を養います。

【道の駅 吉野路大塔】

UFOのような外観が特徴の施設。五條市大塔町の様々な観光情報をはじめ、特産品を一堂に集めた総合案内センターです。



道の駅「吉野路大塔」と帝塚山大学との連携②



平成30年度 取り組み内容：道の駅レストラン営業、オリジナルメニュー・お土産開発等

TEZUcafe営業(29日間)

イベント参加やメディアへの出演

知名度向上のため、チラシやSNSによる宣伝。イベントへの参加や地元FMラジオ等へも出演。

FMラジオ出演

社会人基礎力育成グランプリ 全国決勝大会

「地域振興支援に挑戦するTEZUcafe(学生レストラン)4期生～最終章 歴史からの挑戦～」と題して取り組みを発表し、準大賞、協賛企業賞を受賞。

オリジナルメニュー開発

豆乳を使用した「ロコモコ丼」、「豆乳パンケーキ」、大塔カレーをアレンジした「カレーいなり」など地域の食材を利用した創作料理の開発。

ロコモコ丼
豆乳ハンバーグを使用したハワイ料理。

豆乳パンケーキ
豆乳を使用したオリジナルパンケーキ。

カレーいなり
ジビエ肉を使った大塔カレーを素材にしたいなり寿司。

お土産の開発・商品化

幕末に天誅組の本陣がおかれた五條市に焦点を当て、天誅組の総裁吉村貞太郎が高知県津野町出身であったことをヒントに、五條市の柿、津野町のほうじ茶、高知県の生姜を用いた新商品「てんちゅうグミ」を開発。高知県庁、津野町及び生産工場等へ協力を依頼。

道の駅「風早の郷風和里」と愛媛大学の連携①



道の駅「風早の郷風和里」と愛媛大学社会共創学部が連携し、道の駅活性化・地域活性化に向けた「ふわり活性化プロジェクトin柑橘まつり2019」を実施しました。

ふわり活性化プロジェクト

○道の駅風早の郷風和里と愛媛大学社会共創学部の産学連携プロジェクト「ふわり活性化プロジェクト」が平成29年から始動。道の駅と地域の活性化という共通のミッションを果たすべく、道の駅と大学が連携し活性化企画の検討・実践に取り組む。

これまでの取り組み

○これまで、道の駅の活性化方策に関するワークショップや、道の駅例年イベント「柑橘まつり」と連携したみかんスイーツの企画開発等を実施し、平成30年からはプロジェクト2期生(学部1回生)が新たに加わり、今後の連携の体制強化や道の駅・大学・地域の更なる交流が図られた。



※この地図は国土地理院の地理院地図に加筆したものである。

	H29		H30		H31	
	5月	12月	1月	2月	12月	1月
道の駅 風早の郷風和里	現地調査	活性化ワークショップ	みかんスイーツの開発	柑橘まつりの出店準備	柑橘まつり企画会議	みかん大福のクオリティアップ
プロジェクト1期生 (学部2回生)		柑橘まつり企画会議				
プロジェクト2期生 (学部1回生)						柑橘まつり2019



道の駅「風早の郷風和里」

山と海に囲まれた自然豊かな場所にある道の駅。朝採れ新鮮野菜だけでなく、魚介類、手作りの惣菜や漬物など、ハラエティに富んだ地元産品を購入することが可能。地元食材を使用したレストランだけでなくアイスクリームや、じゃこてんなどの軽食が食べられるコーナーも設置。



愛媛大学

愛媛大学(所在地:愛媛県松山市)は、7学部と大学院6研究科からなる四国最大の総合大学。『「輝く個性で地域を動かし世界とつながる大学」を創造することを理念に、地域を牽引し、グローバルな視点で社会に貢献する教育・研究・社会活動を展開する』をビジョンに掲げ、社会共創学部を起点とした地域実践型教育による人材育成を推進。

道の駅「風早の郷風和里」と愛媛大学の連携②



平成30年度 取組み内容:みかんスイーツの製作・販売とみかん足湯サービスの提供

柑橘まつりに向けた企画会議(H30.12)

○柑橘まつりを盛り上げるための企画会議を開催。「みかん足湯」という新発想の企画が提案された。



柑橘まつりに向けた準備・計画(H31.1~H31.2)

○みかん大福のクオリティアップのための試作会や、当日の販売方法や足湯提供方法に関する作戦会議を開催。
○準備段階から道の駅関係者と学生が連絡を取り合い、みかんの手配・調達など出店に向けた準備を行った。



みかん大福の販売 / みかん足湯の提供(H31.2.17)

○道の駅来訪者へクオリティアップした「みかん大福」を販売し、みかんの皮を活用した「みかん足湯」サービスを提供。
○道の駅から来訪者へふるまわれる「猪鍋・ぜんざい」の準備・配布を学生がサポートし、イベント全体が活気づいた。



平成30年度の取組みでは、みかん大福の出店だけでなく、道の駅関係者と協力して、「猪鍋」や「ぜんざい」の準備から配付まで実施するなど、交流がおおいに深まった。関係者からは「また一緒にイベントをしたい」などの声も多数寄せられている。平成31年度も連携は継続していく方針であり、内容については今後大学や道の駅と調整予定である。

道の駅「みえ」と別府大学との連携①




道の駅「みえ」と別府大学の学生が連携して、地元の特産物を活用したグルメ商品を開発地域活性化に向けた“道の駅みえ”地産地消プロジェクト”に取り組んでいる。

①平成28年度から取り組んでいる“道の駅みえ”地産地消プロジェクト”では、毎回地元の食材を使った魅力的な商品が生まれている。

平成28年度	平成29年度	平成30年度
里芋の親いもを使った 大好評の「おやこロバーガー」	ブランドさつまいも“甘太くん”を使った 皮まで食べられるけん!「みえ丸ごとぼてと」	イチゴを使った 新スイーツ開発中
		

【別府大学について】
別府大学は、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づいて、学問研究の究極目的を真理の探究に置いて、すぐれた学問研究の実現をめざすとともに、学問研究に基づいて養われる深い教養に基礎づけられた自由な人間、高い専門能力と広い教養を身につけ、豊かな人間性を備え、進んで社会に貢献しようとする人材を養成することを目的としています。
また、地域にある大学としての自覚に基づいて、人材の育成を通じて地域社会に貢献すると同時に、学問研究を通じて学術・文化・社会の発展に寄与することをめざしています。

【道の駅「みえ」について】
道の駅「みえ」は、地元の方々と季節毎のお祭りやイベントで連携しており、地元の方々にとっても憩いの場となっています。



道の駅「みえ」と別府大学との連携②



平成29～30年度 取組み内容：特産物を使った商品開発

- 大分県豊後大野市三重町の特産物(さつまいも)を使った商品の開発
～ ついに商品化「みえ丸ごとぼてと」～

河川国道事務所の担当職員、大分県の担当職員、道の駅みえの関係者による試食求評会やテスト販売を経て、商品化が実現！

【大学の調理実習室での最終段階の会議の様子】



【テスト販売の様子】



- その他、平成28年度には、粘り気が少なく商品価値がないと廃棄されていた里芋の親いもを使ったハンバーガーが大人気商品になったり、平成30年度は、人気特産物のイチゴの品切れ時もイチゴ関連商品が販売できるようにイチゴを使った商品開発が行われている。

道の駅「つの」と宮崎大学との連携①



道の駅「つの」と宮崎大学（地域資源創成学部）の学生が連携して、地域資源を活用し、道の駅を拠点とした地域活性化等の企画提案を行います。

①都農町の現状把握と分析

- ・SWOT分析（強み・弱み・機会・脅威）を実施
- ・道の駅「つの」での短期インターンシップ
- ・利用者アンケート、ワークショップを実施

反映

②都農町の魅力を再発見し、町を元気にできるような取り組みを実施、継続する

- ・都農町への訪問数を増やし、都農町に詳しくなるとともに人々とのつながりを強化
- ・都農町の魅力UPに繋がる各種企画を継続

発展

③若い世代のアイデアで地域の特産を生かした地域活性化事業に寄与

【宮崎大学】

1949（昭和24）年の創立以来の歴史ある伝統校で、変動する社会の多様な要請に応え得る人材を育成することを教育の理念とし、教育文化学部、医学部、工学部、農学部及び大学院研究科から構成されています。

平成28年4月には「地域資源創成学部」が新たに設置され、地域の活性化に不可欠な社会を牽引するイノベーション創出に向けたマネジメントの知識と、地域資源の価値を複眼的に捉える視野を持った人材を養成し、地域から要望が高い、実社会で即戦力として、日本国中で活躍できる人材の輩出を目指しています。

【地域の状況を把握】

「ぶどう・梨狩り」や「都農漁港」、「矢研の滝」などを散策、体感することで状況を把握。



名貴川源流部、複数の谷にかかる30余りの滝は、名勝指定された国内唯一の瀑布群です。

【町内イベントへの参加】

宮崎大学根岸研究室で結びのまつり実行委員会への参加と料理の振る舞いを実施



【道の駅「つの」について】

道の駅「つの」では、地域特産のトマトをメインにオリジナル商品の開発に取り組んでおり、更なる地域活性化に寄与していきます。



道の駅「つの」と宮崎大学との連携②



平成30年度 取り組み内容：町内イベント「結びのまつり」への参加

- ・毎年都農神社で開催される「結びのまつり」に参加（H31.2.9～H31.2.10）
※道の駅と隣接する都農神社は橋で連絡しており、各種イベントを共同開催を実施するなど、つながりの深い施設です。
- ・宮崎大学根岸研究室でまつり実行委員会への参加と料理の振る舞いを実施

■事前打合せ

- ・まつり実行委員会への参加（11月～委員会の集まり）へ積極的に参加し、都農の観光地を地元食材で表現し、観光地と食材の両方をPRし、振る舞うことにより祭りを盛り上げることを企画。

■祭り当日

- ・夜の交流会では、特産品や観光資源を町外・県外の方々にプレゼンPRしながら料理の振る舞いを実施し、高齢者をはじめ、地域外からの来場者からも好評を頂き、広く都農をアピールした。



●事前打合せのようす



●まつり当日のようす（本年度は、道の駅と都農神社の2箇所で開催）



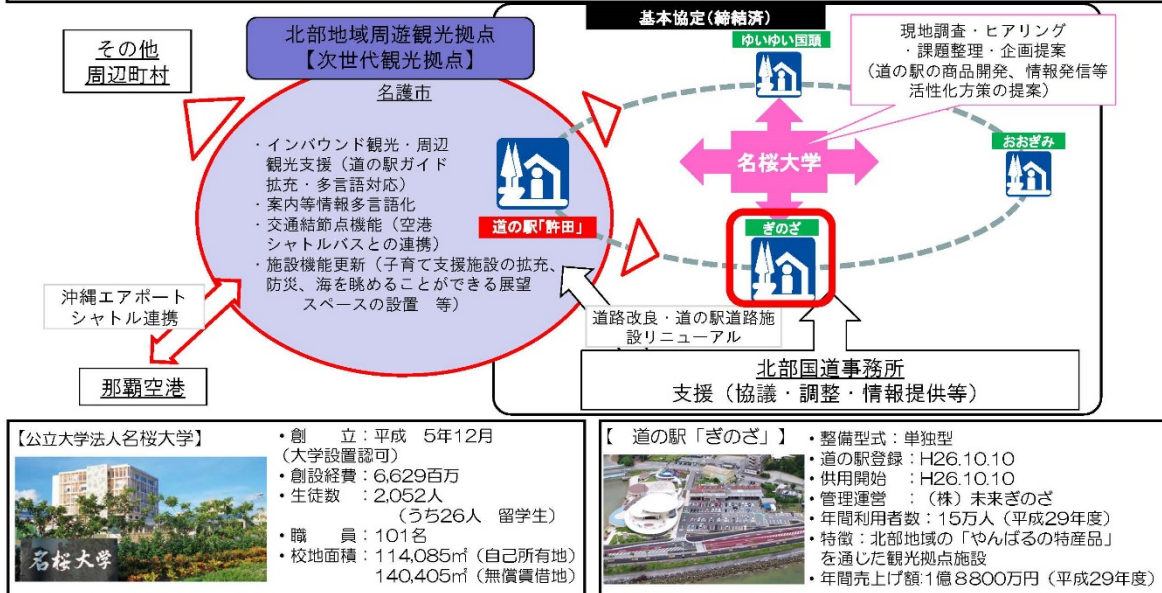
●宮崎大学の学生による料理のおもてなしを通じた都農の魅力PRタイム



道の駅「ぎのざ」と名桜大学との連携①



周辺道の駅（ゆいゆい国頭、おおぎみ、ぎのざ）、地元大学（名桜大学）及び北部国道事務所による協定であり、各道の駅と大学が、互いのニーズに合致する新たな価値を創出する企画・立案等を行い、将来の地域活性化の担い手となる学生に学習の場を提供するとともに、各道の駅が地域活性化の拠点を目指して発展していくことを目的としている。



道の駅「ぎのざ」と名桜大学との連携②



平成30年度 取組み内容：活性化に向けた現地確認・意見交換会を開催（H30.12.3）

現地確認・意見交換会概要

- 道の駅駅長、副駅長、名桜大学の学生による意見交換を実施。
- 意見交換の内容は、学生側からは、道の駅施設の確認した際の感想やその他現地確認を受けての追加の質問、道の駅運営側からは、若者のニーズ・休日行動、若者にとっての道の駅のイメージ、学生に考えてほしい事等について意見交換を行った。

1. 現地確認・意見交換の結果

【現地確認・意見交換】

- 開催日時：平成30年12月3日（土）15：30～18：00
- 場所：道の駅「ぎのざ」
- 参加者：道の駅駅長、副駅長（宜野座村観光協会）、名桜大学 学生（4名）

■意見交換会を通して明らかになったこと

- 学生は道の駅「ぎのざ」の存在自体知らない学生が多い。
- 名桜大学から車で30分ほどの距離にあり、学生の日常生活の行動・アンテナ外であることがわかった。
- 学生の日常生活の中で、道の駅を利用する習慣が無いとの意見があった。

図 現地確認・意見交換の様子



2. 学生による企画提案（検討段階）

【道の駅許田の課題】

- 道の駅運営側の感じている道の駅許田の課題
- リニューアル後の客層変化に伴う利用者ニーズの変化を把握できていない。

学生側の感じた道の駅許田の課題

- 若者が道の駅に対する体験型（アクティビティ）のイメージがない。
- 道の駅ぎのざHPの更新
- 施設内の写真がイメージ図のままになっている。
- 新しい施設が完成しているので、写真に直した方がイメージが良い。
- SNS 関連インスタグラムの改修
- Instagramにおける、facebook リンクがワンクリックで飛べない。
- よって、facebook ページにひと手間かかる。
- SNS 関連外国語対応
- 香港などのインバウンド客が多いわりに、SNS の情報発信における外国語対応が行われていない。

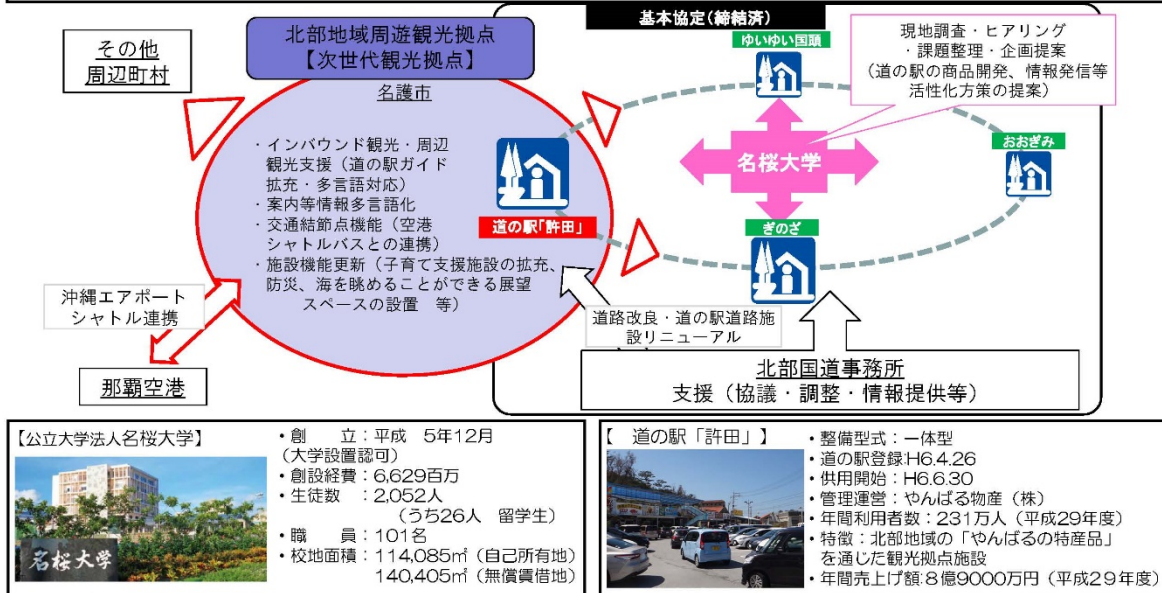
【道の駅運営側から学生への要望】

- 道の駅駅長より、学生へ取り組んでほしいことについて説明を行った。
- 観光施設の割引チケットを販売しているが、観光施設自体あるいはその周辺の観光情報が不足していると感じているため、学生独自の目線で周辺観光施設の情報（おすすめの飲食店や観光施設内のみどころ）を提供してほしい。その際の視察代（チケット代）については、支援する。
- 道路情報ターミナルに展示している写真がどこに位置するのかわかるような工夫を考えてほしい。

道の駅「許田」と名桜大学との連携①



周辺道の駅（ゆいゆい国頭、おおぎみ、ぎのざ）、地元大学（名桜大学）及び北部国道事務所による協定であり、各道の駅と大学が、互いのニーズに合致する新たな価値を創出する企画・立案等を行い、将来の地域活性化の担い手となる学生に学習の場を提供するとともに、各道の駅が地域活性化の拠点を目指して発展していくことを目的としている。



道の駅「許田」と名桜大学との連携②



平成30年度 取組み内容：活性化に向けた現地確認・意見交換会を開催（H30.12.8）

現地確認・意見交換会概要
 ・道の駅駅長、北部国道事務所、名桜大学の学生による道の駅「許田」の現地確認及び意見交換を実施。
 ・意見交換の内容は、学生側からは、道の駅施設を確認した際の感想やその他現地確認を受けての追加の質問、学生の道の駅に対する意識調査（アンケート調査）の実施報告、道の駅運営側からは、施設利用状況、施設の課題、今後の取組内容、学生に求めること等について意見交換会を実施。

1. 現地確認・意見交換の結果

【現地確認・意見交換】

- ・開催日時：平成30年12月8日（土）15:00～17:00
- ・場所：道の駅「許田」
- ・参加者：道の駅駅長、沖縄総合事務局北部国道事務所、名桜大学 学生（3名）

■学生による道の駅許田の感想

- ・学生による道の駅許田の主な感想として以下が挙げられた。
- ・海の写真が撮れる展望施設や屋上休憩施設は、良いと思った。
- ・試食サービスが良いと思ったが、外国人にとって説明書きが分かりにくいと感じた。
- ・割引チケットの看板（レジ上）が見づらいと感じた。見づらいとチケット売り場前に人が滞留し、混雑の原因となるため、多言語化したメニュー（手でみられるもの）を作成してほしい。
- ・物産施設側へ駐車した人は、道路情報ターミナル側へ回遊していない印象である。

■道の駅許田の利用状況

- ・道の駅駅長より、道の駅の利用状況の概要説明を行った。
- ・年間の来客数は少なくとも200万人であり、インバウンド需要の拡大を受け、今後も増加する見通しである。
- ・200万人の内、約3割がアジアからの外国人であり、地元の人々の利用は少ない印象である。
- ・外国人の利用の仕方は、食べ歩きモノや乾物の購入がメインで、地元の人々は、宝くじの購入、お土産の購入となっている。
- ・団体バスの利用は少ない。

図 現地確認・意見交換の様子



2. 学生による企画提案（検討段階）

【道の駅許田の課題】

- 道の駅運営側の感じている道の駅許田の課題
- ・駐車場や物販スペースの確保
 - ・インバウンドの増加を受け、商品の宅配サービスの拡大（海外への対応）（まずは主要な台湾・韓国に限定して取り組む予定）
 - ・SNSやHPによる情報発信やわかりやすい観光情報の発信（マップやHPの整備、多言語化対応）
 - ・マナーの悪い外国人への対応（ポップなどによる表示）
 - ・インバウンド対応した支払サービスの拡充

学生側の感じた道の駅許田の課題

- ・利用者が自発的にSNSで情報発信してもらえるような工夫が必要
- ・外国人でも分かりやすい商品の説明や観光案内
- ・割引チケット売り場の看板の工夫（施設概要が分かるイメージの追加、メニューボードの作成）

学生の道の駅に対する意識調査（アンケート調査）の実施報告

- ・学生より、アンケート調査の実施報告と概要の説明を行った。
- ・名桜大学の学生100名を対象として、全般的な道の駅の印象、利用目的、道の駅許田の印象、旅行時の情報収集方法等についてアンケートを実施した。
- ・実施方法は、Googleフォームにより、授業参加した学生に回答してもらった。

【道の駅運営側から学生への要望】

- ・道の駅駅長より、学生へ取り組んでほしいことについて説明を行った。
- ・観光施設の割引チケットを販売しているが、観光施設自体あるいはその周辺の観光情報が不足していると感じているため、学生独自の目線で周辺観光施設の情報（おすすめの飲食店や観光施設内のみどころ）を提供してほしい。その際の視察代（チケット代）については、支援する。
- ・道路情報ターミナルに展示している写真がどこに位置するのかわかるような工夫を考えてほしい。



全国「道の駅」連絡会事務局

〒135-0042 東京都江東区木場2-15-12 MAビル3階

TEL 03-5621-3188 / FAX 03-5621-3177

E-mail info@michi-no-eki.jp